

1

The Next Generation of CAD/CAM

感動を刻む新たな10年

th

日本臨床歯科CAD/CAM学会 第10回学術大会

2024 12月7日[土] 8日[日]

■会場：パシフィコ横浜

■大会運営委員：大会長 北道敏行、実行委員長 中井 巳智代

歯科技工士部会部長 前川 泰一、歯科衛生士部会部長 河野 充子

■後援：横浜市医療局、公益社団法人 神奈川県歯科医師会

一般社団法人 横浜市歯科医師会

■協力：MID-G、日本小児口腔発達学会



Japanese
Society of
Computer
Aided
Dentistry

JSCAD

アンケートへのお願いです

日本臨床歯科 CAD/CAM 学会では
各イベントで
必ずアンケート調査を行っております

なぜか？

会員の皆様の生のお声をいただき
よりよい
学会にしていきたいと思っているからです

皆様のおかげで10周年

次の10年のために

ぜひご意見を！

下記 QR からご回答をお願いします！





パシフィコ横浜

ACCESS GUIDE

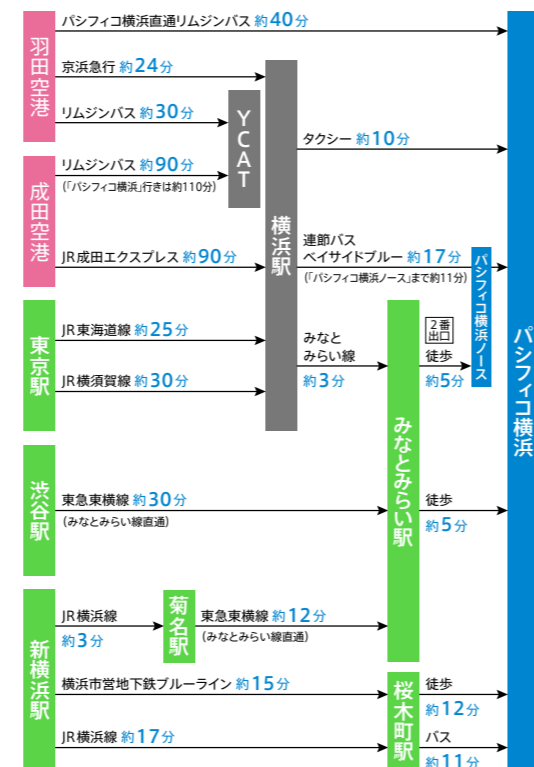
羽田空港から直通リムジンで約 40 分
 最寄駅：みなとみらい線 みなとみらい駅 / JR 桜木町駅
 〒 220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 TEL.045-221-2155



駐車場のご案内

- P1 みなとみらい公共駐車場
- P2 臨港パーク駐車場
- P3 バス・大型駐車場
- P4 ノース駐車場

2023.8



パシフィコ横浜会議センター 3F

当日は受付にてネームプレートを持参の上ご入場下さい。



The Next Generation of CAD/CAM

感動を刻む新たな10年

10th

一般社団法人日本臨床歯科CAD/CAM学会 第10回学術大会

実行委員会 組織図

実行委員長	中井巳智代				
運営統括委員	蕭 敬意	北道敏行	毛呂文紀	熊谷俊也	江本 正
	池田祐一	小林健一郎	千葉 崇	辻 展弘	高松雄一郎
	寺村 俊	片山慶祐	前川泰一	濱田真理子	
実行委員	岸 輝樹	小室 暁	伊藤 慎	下田孝義	藤井肇基
	林 敬人	堀 良彦	佐藤知雄	川上伸大	佐久間利喜
	末木芳佳	中村武仁	竜 正大	木下英明	今井恭一郎
	矢島昇悟	河野恭佑	若杉好彦	小安正洋	北條 泰
	中原維浩	井上高暢	北園里佐	長谷川 篤	上野俊将
	市毛大樹	吉江弘成	磯野博文	穴沢有沙	菅原舞子
	神園あゆみ	長内朝子	市村 彰		

目次

演者・座長の先生方へのご案内 06
 タイムテーブル 08
 企業配置図 10

大会長挨拶 11
 理事長挨拶 12
 実行委員長挨拶 13
 神奈川県歯科医師会挨拶 14
 横浜市歯科医師会挨拶 15

特別企画

落合 陽一 16

共催セミナー

MID-G 代表挨拶 17
 MID-G 共催セミナー 18
 NPD 代表挨拶 19
 小児口腔発達学会共催セミナー 20

海外演者講演

ISCD 海外講演
 Reiss Abstr 22
 Dentsply Sirona
 Giorgio Cremaschi 23
 Johannes Krug 24
 Swen Deussen 25

RAY Solution
 Dr. Jaewon Choi 26

技工工士部会発足記念リレー講演

技工工士部会発足記念リレー講演 27

教育講演

伴 清治 28
 里見 貴史 29
 草野 薫 30

シンポジウム

鎌倉 聡 31
 梶岡 宣好 32
 黒田 貴代江 33
 松丸 悠一 34
 松田 謙一 35
 佐藤 洋司 36
 白鳥 裕一 37
 甘利 佳之 38

会員発表

横田 凌輔 39
 富永 知穂 40
 木田 智久 41
 山本 英樹 42
 谷山 隆一郎 43
 井上 高暢 44
 匠原 龍太郎 45
 末木 芳佳 46
 吉橋 典章 47

ポスター発表

ポスター発表 48

スタッフ発表

寺西 菜実 50
 後藤 真理 50
 岩切 莉幸 51
 岩崎 琴美 51
 根岸 香南子 52
 竹本 あみ 52

スタッフセミナー

今泉 麻衣子 53

歯科衛生士認定講座

河野 充子 54
 濱田 真理子 54

審美セミナー

矢野 章 55

歯科衛生士セッション

片山 慶祐 56
 濱田 真理子 56
 菅原 舞子 57
 松江 亜美 57
 河野 充子 58
 永田 翔大 58
 梶原 貴子 59
 新沼 里紗 59

DTハンズオン

難羽 康博 60
 森 朋智 61

歯科技工士セッション

藤松 剛 62
 村田 彰宏 63

DTセッション2

吉澤 琢磨 64
 高瀬 直 65

シークエンシャル咬合

諸隈 正和 66

特別セミナー

小畑 真 67

オルソセミナー

尾島 賢治 68

インプラントセミナー

多保 学 69

ストロマンダイレクトガイド

田中 譲治 70

総括講演

北道 敏行 71

企業セミナー

株式会社モリタ 72
 WHITE CROSS 株式会社 73
 デンツプライシロナ株式会社 74
 株式会社4DX 75

ランチョンセミナー

ランチョンセミナー 76

認定審査会

認定審査会 77

演者・座長の先生方へのご案内

● 演者の先生方へ

1. 試写をご希望の方は、あらかじめ主催者または担当者にご相談ください。
2. 各講演の演者は、プログラム開始の15分前までに、会場左前方の次演者席にご着席し待機をお願いいたします。


● 座長の先生方へ


1. 座長は、事前に演題の抄録と発表者の研究内容を十分にご検討ください。
2. 各講演の演者は、プログラム開始の15分前までに、会場左前方の次演者席にご着席し待機をお願いいたします。
3. 進行の時間厳守をお願いいたします。
4. 発表が時間を超過する場合は、座長の判断で講演を終了させていただきます。
5. 質疑応答、討議、総括等を適切に行い、講演を有意義なものにしてください。

	ジャンル	演者	日程	時間	会場	司会	座長
12/7 (土) 午前	会員発表		12/7	9:30 ~ 12:00	302	千葉崇	川上伸大, 木下英明
	歯科技工士部会主催 DT リレー講演		12/7	10:00 ~ 11:30	303	前川泰一	寺村俊
	シーケンシャル咬合	諸隈正和	12/7	10:50-12:00	311+312	下田孝義	井上高暢
	特別講演 市民公開講座	落合陽一	12/7	10:30-12:00	315	小林健一郎	
12/7 (土) 午後	教育講演 1	伴清治	12/7	13:20 ~ 14:50	301	岸輝樹	熊谷俊也
	教育講演 2	里見貴史・草野薫	12/7	15:10 ~ 15:50 16:00 ~ 16:40	301	岸輝樹	小室暁
	小児口腔発達学会共催セミナー		12/7	13:00-15:00	302	中井巳智代	
	MID-G 共催セミナー		12/7	15:10-16:50	302	伊藤慎	
	DT ハンズオン 1	難羽康博	12/7	13:30-15:00	303	長谷川篤史	小屋順平, 村井久乃
	DT ハンズオン 2	森朋智	12/7	15:20-16:50	303	前川泰一	下郡俊映, 永井麻衣子
	デジタルと業務範囲	小畑真	12/7	14:00-15:30	304	中原維浩	木下英明
	スタッフ発表		12/7	13:30-15:00	311+312	永田翔大	松江亜美, 梶原貴子
	スタッフセミナー	今泉麻衣子	12/7	15:20-16:50	311+312	小林祐二	
	Face-Driven Treatment ハンズオンコース		12/7	15:00-16:30	313+314	佐久間利喜	毛呂文紀
12/8 (日) 午前	海外演者講演 ISCD DentsplySirona	B.Reiss GiorgioCremasachi Johannes Krug Swen Deussen	12/8	9:00 ~ 12:00	301	川上伸大	江本正
	シンポジウム 1 インプラント	鎌倉聡 梶岡宣好 黒田貴代江	12/8	9:00 ~ 11:40	302	小室暁	小林健一郎
	歯科技工士セッション	藤松剛・村田彰宏	12/8	9:00 ~ 12:00	303	前川泰一	長谷川篤史, 上田翔太 長谷川篤史, 中島世陽
	オルソセミナー	尾島賢治	12/8	9:00 ~ 10:30	304	末木芳佳	藤井肇基
	歯科衛生士認定講座	河野充子・濱田真理子	12/8	9:00 ~ 9:45 9:50 ~ 10:30	311 + 312	新沼里紗	片山慶祐, 菅原舞子
	審美セミナー	矢野章	12/8	10:50 ~ 12:20	311 + 312	井上高暢	佐久間利喜
12/8 (日) 午後	インプラントセミナー	多保学・熊木康雄	12/8	10:50 ~ 12:20	313 + 314	北條泰	今井恭一郎
	シンポジウム 2 デジタルデンチャー	松丸悠一・松田謙一	12/8	9:00 ~ 10:30	301	毛呂文紀	竜正大
	シンポジウム 3 アライナー矯正	佐藤洋司・白鳥裕一 甘利佳介・松岡伸也	12/8	13:00 ~ 15:20	302	中井巳智代	蕭敬意
	DT セッション 2	吉澤琢真・高瀬直	12/8	13:00 ~ 15:20	303	前川泰一	伊藤竜馬, 濱崎順一 伊藤竜馬, 師玉大志
	海外演者講演 Ray	Jameson Choi	12/8	13:00 ~ 15:00	304	岸輝樹	江本正
	歯科衛生士セッション	片山慶祐 他	12/8	13:00 ~ 14:30	311 + 312	北條泰	小林健一郎
	ストロマンダイレクトガイド	田中譲治	12/8	13:00 ~ 15:00	313 + 314	中村武仁	小室暁
	総括講演	北道敏行	12/8	13:00 ~ 14:30	301	末木芳佳	辻展弘
企業セミナー	企業セミナー A	株式会社モリタ	12/7	15:20 ~ 15:50	313+314	藤井肇基	
	企業セミナー B	WHITE CROSS 株式会社	12/7	10:00 ~ 11:30	313+314	堀良彦	
	企業セミナー C	デンツプライシロナ株式会社	12/7	13:20-14:20	304	熊谷俊也	
	企業セミナー D	株式会社 4DX	12/7	10:00 ~ 11:30	313+314	林敬人	


タイムテーブル

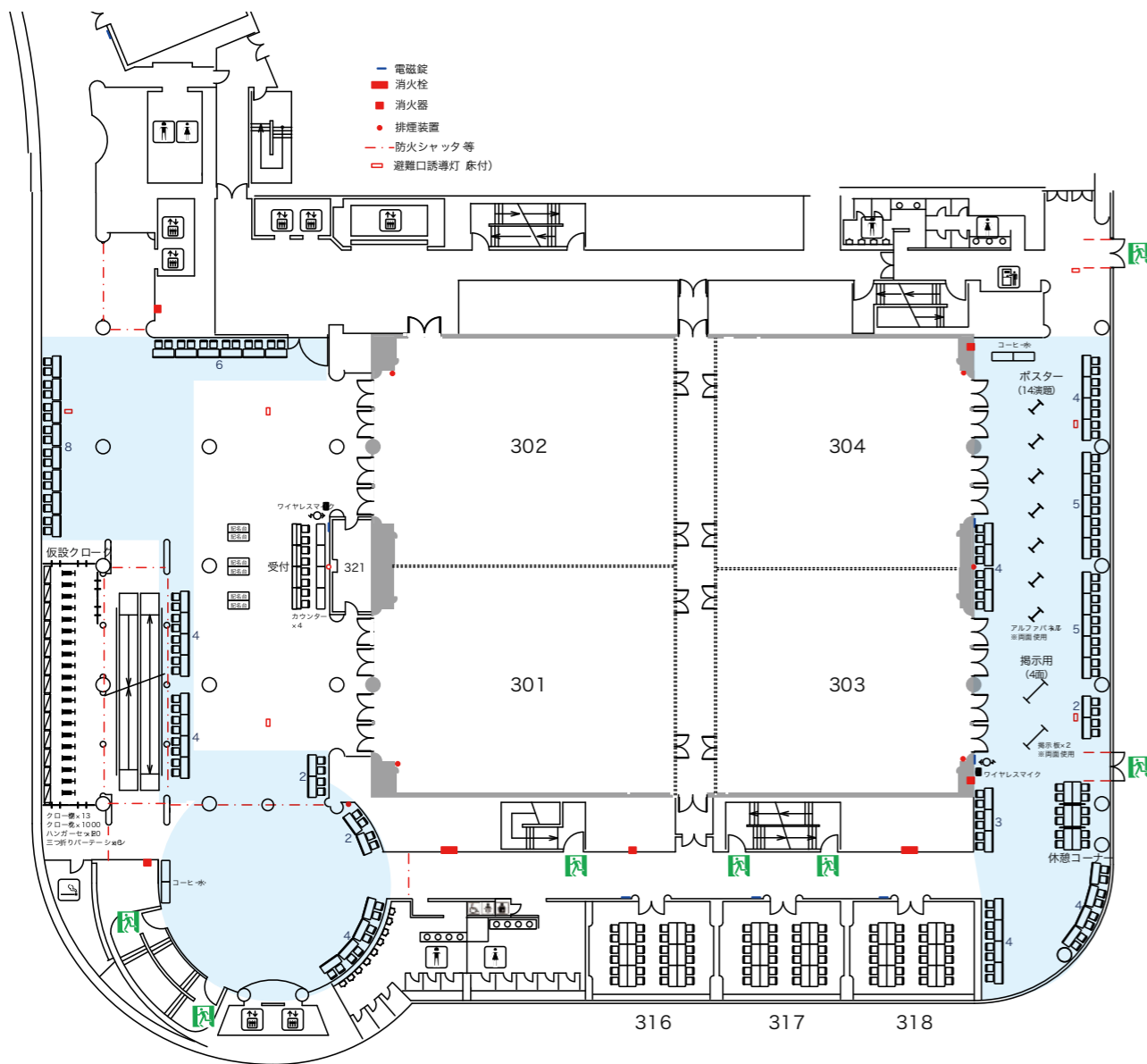
※イベントの内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

12/7 [土]								
場所 内容	301 メイン	302 サブ	303 歯科技工士	304 企業・その他	311+312 学会・コ・デンタル関係	313+314 企業セミナー	315 市民セミナーなど	フォワイエ 企業展示など
8:30	受付							
9:00	開会式 各分会発足式 DT/DH 分会発足式 9:00～9:30							
10:00		会員発表 9:30～12:00	歯科技工士部会主催 DT リレー講演 10:00～11:30 (90分)	企業セミナー C デンツプライシロナ 株式会社 10:00～11:30 (90分)		企業セミナー A 株式会社モリタ 10:00～11:30 (90分)		企業展示
11:00					シークエンシャル咬合 諸隈正和先生 10:50～12:00 (70分)		特別講演会 『市民公開講座』 落合陽一先生 10:30～12:00 (90分)  申し込みはこちら	
12:00	ランチョンセミナー 1 インビザライン・ジャパン 株式会社 12:00～13:00		ランチョンセミナー 2 Ivoclar Vivadent 株式会社 12:00～13:00	ランチョンセミナー 3 株式会社 三和デンタル 12:00～13:00	ランチョンセミナー 7 株式会社 SCO ベイライト 12:00～13:00		認定審査委員会 12:30～13:00	
13:00		小児口腔発達学会 共催セミナー 13:00～14:50 (110分)					認定審査会 13:00～15:30	
14:00	教育講演 1 伴清治先生 13:20～14:50 (90分)		DT ハンズオン 1 難羽康博先生 13:30～15:00 (90分)		スタッフ発表 デンタルスタッフの IOS の活用法 13:30～15:00 (90分)	企業セミナー B WHITE CROSS 株式会社 13:20～14:20 (60分)		
15:00				デジタルと業務範囲 小畑真先生 14:00～15:30 (90分)				
16:00	教育講演 2 日本歯科大学 里見貴史先生 15:10～15:50 大阪歯科大学 草野薫先生 16:00～16:40	MID-G 共催セミナー 15:10～16:50 (100分)	DT ハンズオン 2 森朋智先生 15:20～16:50 (90分)		スタッフセミナー 三方向のホスピタリティ デジタルの時代だからこそ 大切にしたい コミュニケーション 今泉麻衣子先生 15:20～16:50 (90分)	Face-Driven Treatment ハンズオンコース ～Face スキャナー & IOS を使った、 カウンセリングから モックアップ、 審美補綴製作～ 15:00～16:30 (90分)		
17:00							レセプション 17:00～18:00 (60分)	
18:00								

 :アーカイブ配信予定

12/8 [日]							
場所 内容	301 メイン	302 セッション 1	303 企業セミナー	304 セッション 3	311+312 歯科衛生士・コ・デンタル	313+314 専門部門・企業	フォワイエ 企業展示など
8:30	受付						
9:00	海外演者講演 ISCD DR. ライス他 9:00～12:00	シンポジウム 1 インプラント 鎌倉聡先生 福岡宣好先生 黒田貴代江先生 9:00～11:40 (160分)	歯科技工士セッション 藤松剛先生 村田彰宏先生 モデレーター 前川泰一先生 9:00～12:00 (180分)	オルソセミナー 尾島賢治先生 9:00～10:30 (90分)	歯科衛生士認定講座 IOS 臨床における 歯科衛生士分野の 基礎効率化 河野充子 9:00～9:45 (45分) デジタル技術を活用した 歯科衛生士の 業務効率化 濱田真理子 9:50～10:30 (40分)	インプラントセミナー 多保学先生 熊木康雄先生 9:00～10:30 (90分)	企業展示
10:00	ISCD 海外講演 B.Reiss-high solution 9:00～11:40 (160分)						
11:00	Dentsply Sirona 海外講演 Giorgio Cremaschi Johannes Krug Swen Deussen					企業セミナー D 株式会社 4DX 10:40～11:50 (70分)	
12:00	ランチョンセミナー 8 エミウム株式会社 12:00～12:45	ランチョンセミナー 4 デンツプライシロナ 株式会社 12:00～12:45		ランチョンセミナー 6 株式会社 soeasy 12:00～12:45		ランチョンセミナー 5 株式会社ヨシダ 12:00～12:45	
13:00	シンポジウム 2 デジタルデンチャー 松丸悠一先生 松田謙一先生 13:00～15:20 (140分)	シンポジウム 3 アライナー矯正 佐藤洋司先生 白鳥裕一先生 甘利佳之先生 モデレーター 松岡伸也先生 13:00～15:20 (140分)	DTセッション 2 吉澤琢真先生 高瀬直先生 モデレーター 前川泰一先生 13:00～15:00 (120分)	(株) Ray JAPAN 海外公演 Dr. Jaewon Choi 13:00～14:30 (90分)	歯科衛生士 セッション 認定歯科衛生士 発足記念講演 歯科衛生士の 未来を語る 歯科衛生士部会 担当理事 片山慶祐 他 13:00～15:00 (120分)	ストローマン ダイレクトガイド 田中譲治先生 13:00～14:30 (90分)	
14:00							
15:00							
16:00	総括講演 北道敏行先生 15:20～15:55 (35分)						
17:00	閉会式						
18:00							

 :アーカイブ配信予定



- | | | | |
|-----------------------|-------------------|-----------------------------|-----------------------|
| 株式会社 USEN | クラレノリタケデンタル株式会社 | 朝日レントゲン工業株式会社 | 株式会社東京ミライズ |
| 株式会社 Tobe-Ru | 白水貿易株式会社 | メディア株式会社 | 鋳部製作所 |
| 株式会社ガイドデント | 株式会社オルコア | WHITE CROSS 株式会社 | 株式会社 ToothTooth |
| 株式会社 GENOVA | 株式会社 soeasy | 株式会社 NNG | 株式会社茂久商会 |
| インビザライン・ジャパン株式会社 | 株式会社 SCO | ULTRADENTJAPAN 株式会社 | 株式会社 CS-C |
| Deltan 株式会社 | ストローマン・ジャパン株式会社 | 株式会社メディアアート | 株式会社クエスト |
| 株式会社歯愛メディカル | PRSS.Japan 株式会社 | ホワイトエッセンス株式会社 | Z-Systems AG アジア駐在事務所 |
| 株式会社ヨシダ | 株式会社 Brace | ワンデー株式会社 | エミウム株式会社 |
| 株式会社 4DX | 株式会社アルタデント | バイコンジャパン株式会社 | 株式会社 World-Clean Air |
| デンツプライシノナ株式会社 | 3Shape Japan 株式会社 | 株式会社オール・デンタル・ジャパン | MID-G |
| 株式会社ジーシー | YAMAKIN 株式会社 | 株式会社松風 | NPD |
| Ivoclar Vivadent 株式会社 | Black Card I 株式会社 | インターアクション株式会社 | CADCAM 学会 |
| 株式会社ゼロメディカル | 株式会社シエン社 | 株式会社 MA ポート | 成田デンタル株式会社 |
| 株式会社モリタ | 株式会社三和デンタル | (12/1 から株式会社リクルートエンジンに社名変更) | 株式会社 RAY JAPAN |
| 株式会社メディカルネット | 株式会社フォレスト・ワン | 株式会社プラネット | |



北道 敏行 Toshiyuki Kitamichi
一般社団法人 日本臨床歯科 CAD/CAM 学会 会長

日本臨床歯科 CAD/CAM 学会は、デジタルデンティストリーを基盤とする歯科臨床の構築に向け、院内完結型 CAD/CAM システム、IOS ユーザーが中心となって設立した学会です。院内完結型 CAD/CAM システムの臨床を安全に施術する歯科医師の育成を行い、国民の健康増進に寄与することを目的として、草間幸夫先生に設立発起人代表となつていただき発足いたしました。当時、草間幸夫先生からは必ず「1000 人以上の規模の学会にすること」という宿題をいただきました。当初はどうなることかと思いましたが皆様のご協力を頂き、10 年で現在約 900 人弱となりました。時代背景も後押しし、来年中には 1000 人を超える勢いで成長を続けています。そしてここに学会設立 10 周年の学術大会総会を開催できたことは誠に嬉しく思います。これもひとえにこの 10 年間ご支援いただいた会員の皆様、ここまで様々な協力を頂きました各企業の皆様のおかげであると心から感謝しております。

現在の歯科臨床の現場においてデジタル技術の臨床応用範囲の広がりには計り知れません。同時に我々歯科医師は、各種デジタル機器の効果的な使用方法や各種最新材料を安全に使用するための知識を得なければなりません。この新たな歯科医療の在り方である「デジタル歯科医療」は、様々な観点から注目を集めています。デジタル歯科医療の市場規模は年々拡大を続けており、今後著しい成長が見込める分野と考えられます。本学会では、デジタル歯科医療に関わるあらゆる職種と連携を強化し、近年のデジタル歯科医療を用いた診療を基盤に国民の健康に寄与するための技術習得・知識習得を中心に活動を広めていきます。

最後に重ねてではありますが、本学術大会の開催に際し、多くの皆様方にご支援ご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。第 10 回日本臨床歯科 CAD/CAM 学会学術大会の成功と発展を切に願ひまして開催のご挨拶とさせていただきます。

理事長挨拶



蕭 敬意 Jingyi Xiao

一般社団法人 日本臨床歯科 CAD/CAM 学会 理事長

皆様には平素より本会運営にご理解とご協力を頂き、心より感謝申し上げます。
この度、日本臨床歯科 CAD/CAM 学会の第 10 回記念学術大会が、2024 年 12 月 7 日から 2 日間にかけて、パシフィコ横浜にて開催されますことを大変光栄に思います。

本大会の開催にあたり、特にご尽力いただきました大会長の北道先生（本会会長）、実行委員長の中井先生（本会理事）、実行委員の先生方には、心より感謝申し上げます。

本学術大会は、これまでの 10 年の総決算として歯科 CAD/CAM の今を見て頂くことに併せて、これからの 10 年に向かう新たな技術について、皆様と情報を共有し、共に学びを深める場として、お役立て頂きたいと思っております。開催にあたり、一般の方にもデジタルと医療について、より理解を深めて頂くための市民公開講座を開催する運びです。多くの皆様にご参加いただけることを願っております。

講演やシンポジウム、パネルディスカッションを通じて、国内外から著名な専門家の皆様の貴重な知見を共有できることを期待しております。

今回から歯科衛生士・歯科技工士の皆様に向けたセッションも充実した内容となっております。これらのプログラムを通じて参加者の皆様にはそれぞれの専門領域での知識を深め、日々の臨床に役立てていただけることを願っております。

また、学術的な議論だけでなく、会員同士の交流を深める貴重な機会となることを期待しています。

最後に、全ての関係者の皆様のご協力に感謝申し上げるとともに、本大会がデジタルデンティストリーのさらなる発展に寄与することを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

実行委員長挨拶



中井 巳智代 Michiyo Nakai

なかい歯科クリニック

10 年前、第 1 回目の設立記念学術大会は、秋葉原の富士ソフトアキバプラザで開催されました。歯科 CAD/CAM のフロントランナーであった JSCAD のメンバーの皆さんが刻んだ第一回目の記念すべき大会でした。

それから、10 年。歯科医療をとりまく環境は激変しました。歯科デジタルの波は歯冠修復から始まり、今日では、インプラント、矯正、義歯、気道解析にまで及び、コロナ窩の中での働き方改革が叫ばれる中、歯科 DX によって叶えられたいくつもの恩恵を我々医療者だけでなく、患者さんや、メーカーの皆様も享受することとなりました。IOSをはじめ様々なデジタルデバイスやマテリアルもこの 10 年で進化を遂げ、今や日常の臨床に当たり前のよう CAD/CAM が存在するようになりました。口腔内スキャナーが保険収載されることとなり、デジタル歯科の高まりを感じた方も多いと思います。しかし、そのデジタルを適正に使う、アナログな知識と経験を今一度自問自答しなければならない時であるとも感じます。今年の記念学術大会は、歯科衛生士部会、歯科技工士部会も発足し、チーム医療としてのデジタルデンティストリーを多職種が手に手を取り合って学べる学会に成長し、歯科衛生士、歯科技工士の皆さまに向けた多彩なプログラムをご用意いたしました。

日本臨床歯科 CAD/CAM 学会は、デジタル歯科の臨床を人と人との繋がりを大切にしながら、ここに集まる、歯科医療に携わるすべての人たちと共に学び、高め合い、日本の歯科医療に貢献できる学会であるよう邁進しております。デジタルを中心に据えながらも、血の通った愛ある学術大会となることを心から祈念いたします。

神奈川県歯科医師会挨拶



守屋 義雄 Yoshio Moriya

神奈川県歯科医師会 会長

第10回記念学術大会にご参加の皆様、ならびに主催者の皆様、この度の大会が盛会に開催されることを心よりお祝い申し上げます。

学問の進歩は新たな知識の創造と共有によって支えられており、多くの専門家が集まり、知識を交換することで、新たな発見が生まれることを期待しています。

日本臨床歯科 CAD/CAM 学会は、長年にわたり臨床医の協力を通じて業界を牽引してきました。急速に進化する歯科医療分野において、貴学会が今後さらに成長し続けることを楽しみにしています。

また、開業医の皆様が共通の目標に向かって研鑽し協力する体制は、数ある学会の中でも特筆すべき特徴です。貴学会を通じて、日常臨床に直結した治療法が生まれ、歯科医療全体の進化が促進されることを信じてやみません。

この大会は、新たなつながりを築き、研究の種をまき、友情と尊敬を深める貴重な機会です。歯科医療ネットワークを強化し、今後の歯科界の発展に貢献できることを心より願っています。

最後に、主催者の皆様、関係者の皆様、参加者の皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

横浜市歯科医師会挨拶



吉田 直人 Naoto Yoshida

一般社団法人横浜市歯科医師会 会長

一般社団法人日本臨床歯科 CAD/CAM 学会第10回学術大会の開催おめでとうございます。

第10回記念学術大会という記念すべき節目の大会が、この横浜の地で開催されますことを大変喜ばしく思います。

大会長の北道敏行日本臨床歯科 CAD/CAM 学会会長、実行委員長の中井巳智代先生はじめ、大会を開催するにあたりご尽力されたご関係の皆様へ深く敬意を表します。

近年活発化している DX 推進やデジタル・IT 技術を活用した社会構造の変化を鑑みますと、これまでの10年にもまして、この先10年の DigitalDentistry の進化、発展等一層期待できます。

こうした環境のもと開催されます本大会は、参加される皆様にとりましても有意義であり、今後の臨床、先進歯科医療の発展に大いに貢献されることと思います。

本大会の今後ますますのご発展と、ご参画ご参加の皆様方のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶いたします。

一般社団法人日本臨床歯科CAD/CAM学会 第10回学術大会
市民公開講座 特別講演会

「デジタルと医療について」



落合陽一氏を迎え、 未来の歯科医療を語る 特別講演会開催

本講演会では、メディアアーティストとしても活躍している、筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター長の落合陽一氏を講師に迎え、デジタル技術が歯科医療に与える影響について、最先端の事例を交えながらわかりやすく解説します。さて、皆様はご自身の未来の歯について考えたことはありますか？ AIによる歯の診断、3Dプリンターで作るオーダーメイドの歯冠、VRを使った歯の治療体験など、SFの世界の話と思っていたことが、もう現実になるようになっています。この講演会に参加すれば、最先端の歯科医療をいち早く体験でき、あなたの歯の未来に対する考え方が変わるかもしれません。

落合陽一氏

筑波大学でメディア芸術を学び、東京大学大学院学際情報学府にて博士号取得。現在、筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター長/図書館情報メディア系准教授・ピクシーダストテクノロジーズ(株)代表取締役会長CEO。応用物理、計算機科学を専門とし、研究論文は難関国際会議Siggraphなどに複数採択される。令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰、若手科学者賞を受賞。計算機と自然の融合を目指すデジタルネイチャー(計算機自然)を提唱し、コンピュータと非コンピュータリソースが親和することで再構築される新しい自然環境の実現や社会実装に向けた技術開発などに貢献することを目指しています。



司会： 福田典子 アナ

元テレビ東京アナウンサー
株式会社SCOグループCOC兼アナウンサー



栗林 研治 Kenji Kuribayashi

MID-G 代表理事
医療法人社団 栗林歯科医院 理事長

私がMID-G代表理事になり3年の月日が流れようとしています。代表理事になるにあたり、MID-Gコンセプトを「医院を創り、医療を創り、国民の健康を創るMID-G」としました。上質な歯科医療を提供し、国民の健康を守るためには歯科医院体制がしっかりとしている必要があります。国民の健康を守るためにはまずは歯科医院創りから行う必要があるのです。

その流れはデジタル化が進む今も変わりません。

その時代のうねりはIOSやサブカルテの電子化などを代表とするように早く大きくなっています。

さらには、臨床だけではなく、バックヤードを含めた医院創りの全ての分野においてデジタル化が進んでいます。

先生方はこの変化の波に対応できているでしょうか。

実はデジタル化を行うにあたってはいくつかのポイントがあります。

そのポイントの中で最も大事なことは、少しずつデジタル化を進めていくことです。

大きなデジタル化の変化は資金問題もさることながら、クリニックに軋轢を生みます。

スタッフであったり患者さんも適応することが難しくなります。

MID-G役員もいきなりDX型歯科医院を構築したのではなく、一歩ずつデジタル化を進めてきました。

今回は、MID-G役員が進めているデジタル化の歩みとその方向性をお話をしていきます。

そして、もう一つ大切なことがあります。

歯科医院創りの根幹は「学術、教育、経営」の3本柱であることです。

デジタル化の波がこの根幹を覆すことはありません。

それぞれにデジタルテクノロジーが入り込んでいき置き換わっていきます。

そこから、新しい価値を生み出すいわゆる「デジタルトランスフォーメーション(DX)」が起きるのです。

今回は、MID-G役員が進めている単なるデジタル化ではなく、歯科医院のDX化をその歩みと方向性を「学術、教育、経営」の3本柱でお話をしていきたいと思っております。



MID-Gが提案する未来のDX歯科医院のカタチ ～ 医院を創り，医療を創り，国民の健康を創るMID-G～

MID-G's proposal for the future digital dental clinic
MID-G creates clinics, creates medical care, and contributes the health of the nation

栗林 研治 Kenji Kuribayashi

MID-G 代表理事
医療法人社団 栗林歯科医院 理事長

「感動を刻む新たな10年」を大会テーマにした記念すべき日本臨床歯科CAD/CAM学会第10回学術大会に，私たちMID-Gは「MID-Gが提唱する10年先のDX型歯科医院の創り方」をお伝えします。

DXとはただ単に物事・業務をデジタル化することではありません。デジタルテクノロジーで人々の生活がよくなっていくことを意味します。患者さんが来院されてから診療をしてお会計までの一連の全てのプロセスであったり，いわゆるバックヤード業務までがデジタル化をして新しい付加価値を患者さんやスタッフにもたらすものがDX型歯科医院と言えます。

大事なことは，デジタル化の波が進んでも大事なことは変わりません。MID-G設立13年となりますが，設立当初から荒井最高顧問が提唱していた歯科医院運営の3要素は「学術，教育，経営の3本柱」であり，これまでもこれからも歯科医院運営の礎になると考えています。デジタル化をすることによりこれらを蔑ろにできるわけではありません。各要素のバランスが変化することはありません。むしろ，DX型歯科医院を実現するためにはアナログの時代からこそ「学術，教育，経営の3本柱」を確立しておく必要があります。この礎を更なる高みに導いてくれるのがDXではないでしょうか。その考えが支持されているからこそ，MID-G設立13年で受講者数3123人，会員数550人，賛助会員数116社と巨大なスタディーグループに成長したと自負しています。

本大会でも，学術，教育，経営の各分野におけるDXを現理事及び支部長で具体例を交えながら解説していきます。

我が国のデジタル庁は「誰一人取り残されない，人に優しいデジタル化を」をミッションに掲げています。私たちMID-Gもこのミッションに共感します。さらには，MID-Gの存在目的（purpose）である「医院を創り，医療を創り，国民の健康を創るMID-G」を実現するための取り組みを全ての歯科関係者に簡潔にかつわかりやすくお伝えしていきます。

皆様のご来場をお待ちしています。

略歴 2003年 日本歯科大学 生命歯学部 卒業
2009年 New York University CDE Program 修了
2014年 Medical University of Vienna 修了
2022年 MID-G 代表理事 就任



井上 敬介 Keisuke Inoue

日本小児口腔発達学会（NPD）代表理事

デジタルデンティストリーの進化はまさに，“歯科の宇宙開発”と言えるでしょう。1980年代に始まったCAD/CAM技術は，歯冠修復からインプラント，矯正，義歯，気道解析に至るまで進化を遂げ，ついに私たちは“次世代の歯科医療”という月面に旗を立てようとしています。本大会のテーマ「The next generation of CAD/CAM～感動を刻む新たな10年～」は，これからの時代がもたらす驚きと感動，そして未知の可能性への扉を開く合図です。

AIやデジタル技術の急速な進展は，かつて2045年に到来すると言われたシンギュラリティーが，2025年という目の前に迫っているかのようなスピード感を私たちに感じさせます。しかし，これらの技術は人類を支配するものではなく，あくまで「共生するパートナー」です。未来の医療は，AIやデジタルの計算能力と，人間の感性や直感が見事に融合することで，“テクノロジーが手助けする，優しさに満ちた医療”へと進化していくでしょう。人間と機械が織りなす新しい関係性は，歯科医療をこれまで以上に豊かなものへと変えていくと信じています。

私たち日本小児口腔発達学会（NPD）は，子供たちの未来を守ることを理念に掲げ，予防歯科における新しいアプローチを模索し続けています。本大会では，デジタル技術を駆使した小児矯正や口腔機能の発達支援に関する事例とともに，子供たちが「健康寿命100年時代」を生き抜くためのロードマップを皆様と共有させていただきます。この取り組みこそ，私たちが次世代の歯科医療に込めたメッセージであり，ミッションです。

最後に，このような貴重な機会を与えてくださった北道会長，中井実行委員長をはじめ，学会運営にご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。本大会が，未来を先取りし，新しい発想で医療を再定義する場となることを切に願いつつ，ご挨拶とさせていただきます。

デジタルネイチャー時代における 小児予防矯正のあり方

Pediatric Preventive Orthodontics in the Era of Digital Nature

我々日本小児口腔発達学会のメンバー6人は小児予防矯正、すなわちオルト (ORT) 矯正をデジタルネイチャーを用いて行っている。

この講演では、デジタルイノベーションがもたらす治療法の効果と将来のポテンシャルについて探り、希望に満ちた新たな医療の方向性を提示する。



■ 木村 祐紀：“Airway 分析と歯科治療の連携”

口呼吸は小児の顎顔面の成長を阻害する大きな要因である。

私たちは写真や動画では捉えにくい『呼吸』という現象を、形態的・生化学的・周期的な側面からデジタル機器を用いて可視化し、診断と治療に活用している。



■ 仲村 陽平：“デジタルテクノロジーによる小児の睡眠評価”

「寝る子は育つ」という言葉は、子どもの成長と発達において睡眠が重要であることを示している。また、睡眠と歯列の関係性は非常に密接である。

小児の睡眠を可視化することにより、診査診断に生かす方法について説明する。



■ 森 伊津：“全身を見据えた ORT 矯正治療の総合的アプローチ”

不正咬合の治療において、ORT (Oral Root Therapy) の考えに基づくオルト矯正は、患者の未来を見据えて行われるものである。

その効果と意義について報告する。



■ 岩井 孝充：“デジタルデンティストリーの進展と小児矯正治療の評価”

デジタルデンティストリーの導入により、小児歯科での成長変化の可視化が可能となった。

これにより、不正の種に対する患者と両親への迅速な対応が可能になり、子どもたちの口腔育成を早期から正しい方向に導くことができる。



■ 末延 慎司：“多職種が関わる重要性”

子どもの歯列不正の原因を考えると、その原因は口腔内のみならず、全身の発達や生活環境が大きく影響していることが見えてくる。

したがって、子どもの成長を見守る様々な職種 (多職種) によるアプローチも重要となる。



■ 井上 敬介：“小児矯正治療におけるデジタル技術の現状とその意義”

小児矯正治療におけるデジタル技術の現状と将来展望について述べる。

各演者の報告を基に、デジタル技術がもたらす治療の進化と臨床応用の新たな可能性について議論する。

木村 祐紀

<略歴>

愛知県名古屋出身、広島大学歯学部歯学科卒業、広島大学大学院 歯歯学総合研究科 創生医学専攻 (第一口腔外科) 高針台デンタルオフィス開業、高針台デンタルオフィスおとな歯科こども矯正歯科移転開業

<所属学会・資格>

日本小児口腔発達学会 学会長、日本顎咬合学会 咬み合わせ認定医、日本睡眠歯科学会 会員
Butekyo Clinic International Certified Instructor, Level 1 Certified BreathCoach

仲村 陽平

<略歴>

平成 17 年昭和大学歯学部卒業 昭和大学総合診療歯科入局、平成 18 年医療法人社団カノミ矯正・小児歯科クリニック勤務
平成 19 年兵庫県立こども病院出向、平成 22 年医療法人おがた歯科クリニック勤務、平成 24 年岡山 Y's 小児・矯正歯科開院
令和 4 年 8 月一般社団法人 日本小児口腔発達学会 常任理事就任

<所属学会・資格>

日本小児口腔発達学会、日本矯正歯科学会、日本小児歯科学会

森 伊津

<略歴>

千葉県市川市出身、日本歯科大学歯学部卒業、なないろこども歯科開業

<所属学会・資格>

日本小児口腔発達学会 理事、日本小児歯科学会、日本睡眠歯科学会、日本筋機能療法学会、アンチエイジング歯科学会

岩井 孝充

<略歴>

平成 20 年 3 月 第 101 回 歯科医師国家試験 合格 (第 160303 号)、平成 20 年 3 月 愛知学院大学歯学部 卒業

平成 21 年 3 月 愛知学院大学歯学部付属病院歯科臨床研修医終了、平成 22 年 4 月 愛知学院大学歯学部非常勤学部有床義歯学講座入局 助教

平成 24 年 4 月 医療法人正明会 岩井歯科 Teeth Land 増設、医療法人正明会 岩井歯科 小児歯科 医長

平成 25 年 3 月 博士 (歯学) 学位取得 (愛知学院大学歯学部 甲 645 号)

平成 25 年 4 月~ 愛知学院大学歯学部有床義歯学講座 非常勤助教、医療法人 正明会 岩井歯科 院長

平成 27 年 4 月~ 愛知学院大学歯学部小児歯科学講座 非常勤助教

<所属学会・資格>

日本補綴歯科学会、日本口腔インプラント学会、日本磁気歯科学会、日本小児歯科学会、日本睡眠歯科学会、

日本小児口腔発達学会、愛知学院大学歯学会、日本ヘルスケア歯科研究会 (認証医院取得)、愛知インプラントセンター

100 時間コース終了: 愛知インプラントセンター会員、健康・食育マスター 2 級・1 級コース終了

末延 慎司

<略歴>

兵庫県加古川市出身、2001 年 徳島大学歯学部卒業、2005 年 徳島大学歯学部大学院 歯学研究科 (第一保存科) 歯学博士取得

2005 年 国立南和歌山医療センター 歯科口腔外科勤務、2008 年 静岡市内 歯科医院勤務、2013 年 すえのぶクローバー 歯科医院開業

2023 年 医療法人エマージェ 設立

<所属学会・資格>

歯学博士、日本小児口腔発達学会理事、日本口腔インプラント学会 JSOI 専修医、日本睡眠歯科学会、

日本歯科審美学会、日本臨床歯周病学会、日本歯内療法学会

井上 敬介

<略歴>

1997 年 東京歯科大学卒業、2003 年 東京歯科大学歯科補綴学第三講座助手、2005 年 東京歯科大学歯科水道橋病院補綴科助手

2007 年 医療法人真穂会後藤歯科医院 院長、2010 年 医療法人真穂会 1 Dental Clinic 院長、2023 年 日本小児口腔発達学会 (NPD) 設立

<所属学会・資格>

日本小児口腔発達学会 (NPDs) 代表理事、日本予防歯科勉強会 (NPD) 代表、一般社団法人日本幼児いきいき育成協会 (JALNI) 理事、

日本歯科補綴学会、日本口腔インプラント学会、日本矯正歯科学会、日本小児歯科学会、日本小児呼吸器学会、日本睡眠歯科学会



ISCD

来年、CEREC®システムは40周年を迎えます

Next year, the CEREC system celebrates its 40th Birthday.

Bernd Reiss

Chairman of the DGCZ

We were the first private practice worldwide to integrate the system in our clinic, monitoring the clinical success over more than 3 decades: we could find risk-factors that result in clinical recommendations. Fractures occur rarely (4%) but still are the most frequent cause for failures. Non-vital teeth and full crowns show higher risk. Material selection and material thickness are important. Other clinical aspects with impact: The smoother the preparation, the more articulation movements are considered, the better quality of surface polishing and the better the adhesive cementation are key factors for success.

Digital monitoring has come to a new level allowing a “digital twin” as base for diagnosis, evaluation, treatment and material selection. The combination with CBCT technology and/or face scan even widens the scope of treatment options and a better understanding of the oral health of our patients.

私のクリニックでは、このシステムを個人開業クリニックとして世界で初めてクリニックに導入し、30年以上にわたり臨床的成功を見つめてまいりました。臨床的推奨要件につながるリスク要因を見つけることができました。破損はまれにしか発生しません(4%)が、それでも失敗の最も多い事象です。失活歯とフルクラウンはリスクが高くなります。材料の選択と材料の厚さが重要です。影響を与えるその他の臨床的要素: プレパレーションはよりスムーズであること、顎運動により配慮すること、表面研磨の質を向上させること、そして、より良い接着性セメント使用が成功への重要な鍵です。

デジタルモニタリングは、診断、評価、治療、材料選択の基盤となる“Digital Twin”を可能にする新しい次元に到達しました。CBCT技術やFace Scanのコンビネーションにより、治療オプションの範囲がさらに広がり、患者の口腔の状態をより詳しく把握できるようになります。

略歴	
	Dentist Chairman DGCZ Chairman AG Keramik Chairman DDM Member of the board of the DGZMK More than 37 years of practical experience with the CEREC system More than 600 lectures/courses in >40 countries Numerous publications in national and international magazines and books.
1978 - 1983	Study of dentistry, Freiburg, Germany
1983 - 1986	Assistant at the Academy for Advanced Dental Training Karlsruhe
since 1986	in private practice in Malsch, Germany
since 1990	Teacher at the Academy for Advanced Dental Training Karlsruhe
1991 - 2005	2nd chairman of the DGCZ
1996 - 2003	President of the ISCD International Society of Computerized Dentistry
1996	Walther-Engel-Prize Award
1996	Honorary Assistant University of Liverpool
1998 - 2008	Co-editor "International Journal of Computerized Dentistry"
since 1999	Chairman of the AG Keramik
since 2005	Chairman of the DGCZ
since 2009	Member of the board of the DGZMK
2018	Medal of Honor of the DGZMK
2018	Medal "Cerec noch mal" Swiss Society of Computerized Dentistry
2019 - 2024	Chairman AG Dynamic Digital Model
2024	Klaus Wiedhahn Award



Dentsply Sirona

Primescan 2: 初のクラウドネイティブ
口腔内スキャンソリューション

Primescan 2: The first cloud-native intraoral scanning solution

Giorgio Cremaschi

Vice President, Head of Digital Impression Solutions

A few weeks ago, Dentsply Sirona proudly unveiled Primescan 2 — the first cloud-native intraoral scanning solution. In this session, we'll dive into what cloud scanning truly means and explore the powerful benefits this technology brings to dental practices. Discover the versatility and ease of Primescan 2, designed to help elevate both patient care and practice growth. Join us as we enter a new era of digital patient care together!

数週間前、デンツプライシロナ社は、初のクラウドネイティブ口腔内スキャンソリューションである Primescan 2 を発表しました。本セッションでは、クラウドスキャンの真の意味と、このテクノロジーが歯科医院にもたらすメリットをご紹介します。患者ケアと歯科医院の成長の両方を向上させるように設計された Primescan 2 の汎用性と使いやすさを実感してください。デジタル患者ケアの新時代を一緒に迎えましょう！

略歴	
2004年	M. Sc. Eng., Telecommunication at Politecnico di Milano (Italy)
2005年	inLab Marketing Manager Europe at Sirona Dental System GmbH
2008年	CAD/CAM Sales Manager Europe/Canada at Sirona Dental GmbH
2009年	Executive MBA at TH Mittelhessen University of Applied Sciences
2013年	Director Sales CAD/CAM Europe/Canada at Sirona Dental GmbH
2019年	Vice President & Regional Growth Leader CAD/CAM & Orthodontics at Dentsply Sirona
2021年	Vice President Commercial Development Digital Solutions at Dentsply Sirona
2024年	Vice President Head of Digital Impression Solutions at Dentsply Sirona



Dentsply Sirona

より良い構築を – DS Core による CEREC 院内内製の次のレベル

Better together –
Next Level of CEREC in-office manufacturing with DS Core

Johannes Krug

Senior Director and Global Head of CAD/CAM

Discover how CEREC inhouse manufacturing is taking the next step to further grow practice growth and efficiency. Understand how 3D Printing is perfectly complementing well established milling procedures in the context of DS Core and how DS Core is reshaping the communication and operation between dental practitioners and assistants by empowering CEREC with cloud based technology. .

This presentation explores the newly released CEREC SW 5.3 in the context of Primescan 2 as well as Primeprint and Primemill technology updates. Join us in learning the new DS Core Make features that enable excellent ease of delegation and establish new ways of patient specific case documentation.

歯科医院の成長と効率性をさらに高めるために、CEREC の院内内製が次のステップに向けてどのように進んでいるかをご覧ください。3D プリンティングが DS Core の環境で確立された製造手順をどのように補完しているのか、また DS Core がクラウドベースのテクノロジーで CEREC を強化することによって歯科医師とアシスタント間のコミュニケーションと操作をどのように再構築しているのかを理解してください。 .

このプレゼンテーションでは、新しくリリースされた CEREC SW 5.3 を、Primescan2, Primeprint, Primemill の技術アップデートとの関連で説明します。DS Core Make の新機能を学ぶことで、優れた委任のしやすさを実現し、患者固有の症例ドキュメンテーションの新しい方法を確立します。

略歴 2009年 Master Thesis in Industrial Engineering Management, Karlsruhe Institute of Technology (KIT)
2009年 Business Consultant Corporate Strategy and Innovation Management
2012年 Product Manager CAD/CAM Laboratory Hardware
2016年 Team Lead CEREC Product Management Hardware
2019年 Global Director Product Management CEREC
2021年 Global Director Product Management Treatment Solutions
2022年 Senior Director and Global Head of CAD/CAM Business Segment



Dentsply Sirona

DS Coreとコネクテッドデンティストリーの未来： 高度な患者ケア

DS Core and the Future of Connected Dentistry:
Advanced Patient Care

Swen Deussen

Global Vice President DS Core Business Segment

Discover how DS Core is reshaping the landscape of connected dentistry by providing an integrated, cloud-based ecosystem that enhances connectivity across dental technology. This presentation explores DS Core's potential to streamline workflows, optimize patient outcomes, and make advanced digital tools more accessible to practices of all sizes. We'll dive into how DS Core's secure, data-driven solutions support clinicians in delivering precise, efficient care, while enabling real-time collaboration and data management. Join us to see how DS Core is setting the stage for a connected, innovative future in dental practice management and treatment.

歯科医療技術全体の接続性を高めるのに統合されたクラウドベースのエコシステムを提供することで、DS Core がコネクテッドデンティストリーの展望をどのように再構築しているかをご覧ください。このプレゼンテーションではワークフローを合理化し、患者の転帰を最適化し、あらゆる規模の歯科医院が高度なデジタルツールにアクセスできるようにする DS Core の可能性を探っていきます。DS Core のセキュリティーの下、リアルタイムのコラボレーションとデータ管理を可能にしながら、データ主導型のソリューションが的確かつ効率的なケアを提供するために臨床医をどのようにサポートするのかをご紹介します。DS Core が歯科医院の管理と治療において、接続された革新的な未来をどのように実現するのか、ぜひご覧ください。

略歴 2010年 Diploma in International Business and Marketing
2010年 Regional Marketing Manager X-Ray APAC Region
2011年 Product Manager X-Ray
2015年 Senior Product Manager X-Ray
2018年 Marketing Director DACH Region
2021年 Business Development Manager Clinical Software and Solutions
2022年 Global Vice President DS Core Business Segment



RAYFace (FaceScanner) を活用した 革新的な審美治療: プチラミ (PettiLami)

崔 齊原 Jaewon Choi

パノバギメディカルグループ 歯科 代表院長

本講演では、RAYFace とその機能に付随する DSD (デジタルスマイルデザイン) を活用した審美治療の最新ソリューションとして、着脱可能な半永久的仮補綴物「プチラミ」の多様な活用方法を紹介します。

「プチラミ」は、ノンプレップベニア治療の結果を事前に体験することで、患者との共有による理想的な審美治療目標の設定を可能にする。

また、従来のベニア治療との組み合わせにより、患者に自然で魅力的な笑顔を提供し、審美的満足度を向上させる。

さらに、本講演では、さまざまな実際の症例を用いて「プチラミ」とベニア治療の臨床的効果を具体的に解説し、最新のデジタル機器およびソフトウェアを活用した、誰もが実践可能なシンプルで効果的な審美治療の方法を提案する。

経歴書	現職:
	<ul style="list-style-type: none"> Director Dental Department, Banobagi Medical Group 口腔外科・歯科矯正科専門医
	<ul style="list-style-type: none"> Clinical Professor Department of Orthodontics, Kangdong Sacred Heart Hospital, Hallym University
	<ul style="list-style-type: none"> 博士号取得 (Ph.D.) Department of Orthodontics, Tsurumi University, Japan 研修 (Residency): Orthodontics Tsurumi University, Japan 研修 (Residency): Oral & Maxillofacial Surgery Kangdong Sacred Heart Hospital, Hallym University
	<ul style="list-style-type: none"> Chairman Korean Society of Speed Orthodontics 会長 (P.G.I) 韓国

日本臨床歯科CAD/CAM学会 歯科技工士部会発足記念リレー講演

第10回を記念する学術大会に合わせ、技工士部会、衛生士部会が発足した。業界がデジタル化に向かっている中、技工士業界はすでにデジタル抜きでは語れなくなっている。様々な手法や情報が横行しており、自分に合ったデジタルのシステムを上手く選択することが必要な時代である。アナログとデジタルをうまく使い分け、自身のデジタル化を構築していく。その為には正しい情報を提供してくれる場所が必要になる。それが「日本臨床歯科CAD/CAM学会」である。本学会が目指す歯科業界のあり方に共感し、この学会は本当の意味での「三位一体」が叶う学会であると確信している。最新の機器やエビデンス、そして数年後の未来を想像できる学会であり、進むべき道を示してくれる。そんな学会であるからこそ私達歯科技工士も全力を尽くし協力していきたい。そうした志を持った仲間を集めました。部員一人一人の紹介と意気込みを各自リレー形式で発表させていただきます。

技工士部会発足記念リレー講演

この記念すべき10回大会に合わせて、デジタルを使った各分野のエキスパートの技工士を集めました。デジタルデザイン、デジタルデンチャー、インプラント、審美、咬合、矯正 etc. 自身の得意な分野について小出しでプレゼン繋いでいきます。皆さんに技工士部会のメンバーを知ってもらえたらと思います。

森亮太先生
長谷川篤史先生
伊藤竜馬先生
高瀬直先生
下郡俊映先生
市毛大樹先生
師玉大志先生
小屋順平先生
濱崎順一先生
上田翔太先生
中島世良先生
横田真也先生
村井久乃先生
永井麻衣子先生



歯科用ジルコニアの革新と普遍性

Innovation and Universality of Dental Zirconia

伴 清治 Seiji Ban

愛知学院大学歯学部歯科理工学講座非常勤講師 (教授級)

今年の日本補綴歯科学会学術講演会のテーマは“不易流行”(変わらないもの, 変えていくもの)であった。歯科用ジルコニアの“不易流行”を考えてみると、この数年で組成と構成に革新的な変化が生じてきた。しかし、ジルコニアの本質は変わっておらず、臨床応用における基本的な留意点は変わっていない。今回は、歯科用ジルコニアの最新の分類と新製品を紹介し、普遍的な特徴について説明したい。

例えば、ジルコニア修復物の研磨と対合歯の摩耗の関係である。咬合調整後の口腔内における鏡面研磨は歯科医師が避けたがる操作の一つである。その理由として、鏡面研磨に長い時間がかかり、鏡面研磨状態の判別が困難であると誤認されているためと考えられる。しかし、正しい器具を使用し、正しい順序で操作すれば、短時間で良好な鏡面状態が得られることが報告されている。さらに、新しい研磨器具や機材が続々と登場しており、ジルコニアの鏡面研磨に対する危惧を払拭したいと考えている。ジルコニアの鏡面研磨が重要である理由は、①対合歯の摩耗を減少させる、②機械的耐久性が向上する、③化学的耐久性が向上する、④フラークの付着が減少する、⑤上皮付着が良好になる、など多くの福音がもたらされるためである。我々は摩擦係数の測定により摩耗挙動を評価しているが、鏡面研磨したジルコニアはハイブリッドレジンおよびガラスセラミックスよりも摩擦係数が小さかった。ところが、研磨が不十分な場合の摩擦係数は大きくなっていった。このように、正しく鏡面研磨仕上げしたジルコニアは、他の修復材料と比較して対合歯の摩耗が最も少ないという特徴は、ジルコニアが革新的に変わろうとも普遍であり、临床上重要な留意点である。

略歴 1976年 名古屋工業大学大学院工学研究科修士課程(無機材料工学専攻)修了
1982年~2001年 愛知学院大学歯学部歯科理工学教室(助手、講師)
1988年~1989年 フロリダ大学歯学部客員講師
2001年~2003年 鹿児島大学歯学部歯科理工学講座教授
2003年~2010年 鹿児島大学大学院歯学総合研究科教授
2010年~ 愛知学院大学歯学部歯科理工学講座非常勤講師(教授級)現在に至る



口腔外科臨床におけるデジタル化の動向

Current status digital technology and application to the field of Oral and Maxillofacial Surgery

里見 貴史 Takafumi Satomi

日本歯科大学生命歯学部口腔外科学講座 主任教授
日本歯科大学附属病院口腔外科 診療科長

一般歯科臨床においてデジタル化が急速に進んでいる。いわゆるデジタルデンティストリーである。CBCTや画像診断ソフト、口腔内スキャナー、CAD/CAMあるいは3Dプリンターなどのデジタルソリューションは、以前から、埋入手術から上部構造製作まで一連のインプラント治療において、目覚ましい発展・普及がみられてきた。このようなデジタル技術は、より正確な診断とより安心・安全な治療を提供しなければならない歯科臨床、なかでも特に口腔外科臨床ではなくてはならない存在になってきている。これは患者のみならず、術者にとっても大変大きなベネフィットになっている。特にCBCTのDICOMデータから3Dプリンターで作製した実物大の顎骨3Dモデルを用いて、実際の手術をシミュレーションしたり、さらにサージカルガイド等を作製することもできるため、以前に比べて精度の高い正確な手術を提供することができる。以前から、口腔・顎顔面外科領域では、コンピューター支援手術が目ざされ、盛んに研究開発されており、特に顎変形症、顎骨再建など非可動組織である顎骨に対してCTデータを用いたシミュレーションとそれに基づくガイド手術が一般的となってきた。さらに近年、デジタルデンティストリー機器は、改良が進み高精度で操作性が向上し、ユーザー数の増加に伴い、これまで高価格で販売されてきた機器も徐々に低価格になり、かなり身近なものになってきている。

このような背景から口腔外科の臨床では、診断からコンピューター支援手術にいたるさまざまなシチュエーションでデジタル技術を応用している。そこで今回、すでにわれわれが口腔外科臨床に応用しているデジタル技術の一部を紹介し、さらに、バーチャルリアリティー(VR)を用いた教育(埋伏過剰歯抜歯)や臨床研究などについても解説する。

略歴 1990年3月 日本歯科大学歯学部 卒業
1994年3月 東京医科大学大学院医学研究科博士課程 修了 医学博士
1995年4月 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター 国内留学
2000年9月 Canniesburn Hospital (Scotland) Maxillofacial Unit, Morriston Hospital (Wales) Maxillofacial Unit に国外留学
2003年3月 東京医科大学口腔外科学講座 講師
2012年12月 東京医科大学口腔外科学分野 臨床准教授
2018年4月 日本歯科大学生命歯学部口腔外科学講座 主任教授



インプラント手術におけるデジタル技術の活用

Application of digital technology in implant surgery

草野 薫 Kaoru Kusano

大阪歯科大学歯学部 口腔インプラント学講座

人工歯根タイプのインプラント治療が行われ、半世紀以上が経過し、近年では、CBCTやIOS、フェイスキャナーを基軸としたデジタルソリューションによる高精度なトップダウントリートメントにより、確実性の高いインプラント手術が安全に行われ、満足度の高いインプラント治療が可能となった。

これに伴いインプラント治療は、外科、補綴、矯正、顎矯正をカバーする必要があり、外科主導型、補綴主導型、顔貌主導型へと変化が求められている。

しかし、いずれが主導であっても最終的に目指すゴールは同じであり、それらを含めた総合的なインプラント治療が望まれ、最初の一步を踏み出すインプラント外科手術のわずかなるいが、補綴や顔貌に影響を及ぼすと考える。

補綴主導型も顔貌主導型であっても、適正で理想的な位置にインプラントが埋入できなければならないと言える。

これまで、多くの患者が研鑽を積んだ歯科医師の手により、安全・安心なインプラント治療を選択できる環境が提供されている現状から、インプラント植立後の10年生存率が98%を超えると報告されている。

しかし、その高い生存率は好条件の顎骨環境が背景にあると言え、何らかの骨造成を伴うインプラント植立後の生存率が85-93%と低下している現状があるのも否定できない。

そのため初心に立ち返り、デジタルソリューションによるトップダウントリートメントにおいて、インプラント体をどこにどのように埋入するのかだけでなく、どこにどのような骨造成を行い、材料学的な種類や特性をも熟知する必要がある。

そこで本講演では、「インプラント手術におけるデジタル技術の活用」と題し、インプラント外科にフォーカスを絞り、最近のトピックスを交え述べたい。



ダイナミックナビゲーションは現代のガイドサージェリーの完成形だ

Dynamic navigation is the perfect modern guided surgery.

鎌倉 聡 Satoshi Kamakura

医療法人愛媛インプラントクリニックかまくら歯科・理事長

日本口腔インプラント学会専門医 日本歯周病学会専門医

愛媛大学医学部歯科口腔外科非常勤講師 京都インプラント研究所職員 DC21 評議員

そもそもインプラントを埋入するときにガイドサージェリーで行っているだろうか。我々は患者に与える最終補綴物の形態を考慮してインプラントの適切な埋入位置を設計しなければならない。そのとき、骨質、骨形態、血管や神経の走行、副鼻腔、患者の全身状態、要望など様々な要素をそれに盛り込んでインプラントの形態、太さ、長さも選択していく。ガイドサージェリーはそのような様々な条件をもとに設計した治療計画を患者に間違いなく施行するためのものだ。私はサージカルテンプレート（静的ガイド）を使ったガイドサージェリーに長く取り組んできた。その中で、サージカルテンプレートが機能しない症例、開口量に乏しい症例に苦勞し、多数歯抜歯即時埋入においては特殊なラジオグラフィックガイドを作る方法など工夫してきた。近年、それらの煩雑さから解放されるダイナミックナビゲーションシステム（動的ガイド）が発売された。2021年より導入し使用し様々な知見を得た。今回、日常臨床を振り返ってその優位性、使い方、使用時の注意点などをまとめてお話ししたい。

略歴	年月	内容
	1997年3月	北海道医療大学歯学部 卒業
	1997年4月	京都府立医科大学附属病院 医員
	2004年3月	北海道医療大学大学院歯学研究所博士課程（口腔病理学）修了
	2004年4月	北海道医療大学 口腔外科学一講座 助手
	2007年4月	北海道医療大学 顎顔面口腔外科学分野 助教
	2007年10月	The University of British Columbia, Visiting assistant professor
	2008年9月	Vancouver General Hospital, Visiting assistant professor
	2012年8月	北海道医療大学 顎顔面口腔外科学分野 講師
	2018年4月	大阪歯科大学口腔インプラント学講座 准教授
	2019年10月	大阪歯科大学附属病院 口腔インプラント科 科長（現職）
	2022年4月	大阪歯科大学 口腔インプラント学講座 教授

略歴	年月	内容
	2000年	九州歯科大学卒業
	2000年	愛媛大学付属病院歯科口腔外科勤務
	2006年	医療法人愛媛インプラントクリニックかまくら歯科開院



歯科医療におけるデジタルデバイス化の進展とその課題

The Advancements and Challenges of Digital Device Integration in Dental Medicine

梶岡 宣好 Nobuyoshi Sugioka

Straumann NODENT インストラクター
European Association for Osseointegration 認定医
International Academy of Dental-Facial Esthetics Fellow
公益社団法人 日本口腔インプラント学会 代議員 特定非営利団体 日本学咬合学会 認定医

計算をする際、暗算や算盤はアナログですが、では計算機はデジタルなのでしょうか？そして、デジタルで計算するとは具体的にどういうことなのでしょう？また、歯科医療におけるデジタルデバイスは、もし例えとしたら、どのような役割を果たしているのでしょうか。こうした疑問が日々繰り返され、私たちはデジタル化の波に戸惑い、いわゆる「デジタル難民」として感じるが増えているように思います。

今では、歯科医療の分野においてもデジタル化は不可欠とされています。では、この分野に必要なデジタルデバイスとは、一体どのようなものなのでしょう？アナログな算盤なのか、あるいはデジタルな計算機なのでしょう。この10年間でデジタル化は大きく進展し、当院では受付や事務部門の無人化を達成することができました。そして、診療部門においても、インプラントを用いた Full Mouth Reconstruction や総義歯の製作まで、デジタルデバイスを活用し、インハウスで実施できるようになりました。しかし、こうした進展の結果、無人化ではなく、むしろ質の高い専門家の役割がより一層重要となりました。

歯科医療においてデジタルデバイスを効果的に活用するには、3つの重要な条件があります。これらの条件を満たさない限り、デジタル化は従来の診療を危うくし、諸刃の剣となり得るのです。これから、デジタル化のメリットとデメリット、社会的な背景や経営の課題、そして今後の歯科医療が目指すべき方向についてお話ししていきます。

略歴 1988年 愛知学院大学卒業
1988年 愛知学院大学歯学部附属病院保存学第一講座入局
2011年 Osteology Research Academy Lucerne graduation
2011年 医療法人社団 すぎおか歯科クリニック 開院
2015年 第35回 公益社団法人 日本口腔インプラント学会 近畿北陸支部学術大会 大会長
2019年 NEODENT インストラクター就任
2020年 The Korean Academy of Prosthodontics 特別講演
2023年 European Association for Osseointegration certificate



歯科医療におけるデジタルデバイス化の進展とその課題

The Advancements and Challenges of Digital Device Integration in Dental Medicine

黒田 貴代江 Kiyoe Kuroda

医療法人社団 すぎおか歯科クリニック DT 日本歯科技工士会会員
Ivoclar (JAPAN) インストラクター Olal Care クリニカルコーディネーター
IADFE Asia フェロー

歯科医療においてデジタルデバイスの普及が急速に進んでいます。特に歯科技工士業界では、ジルコニアなどの材料の精度が向上し、機器の選択肢も増えています。CAD/CAMシステムは、保険適応補綴や自費補綴の制作において必須のツールとなりつつあり、切削加工の効率化や若手人材の不足、働き方改革の影響がその背景にあります。

しかし、患者の口腔内の状態や歯の形態は一人ひとり異なり、完全に同一のものは存在しません。たとえば、CAD/CAMで作られた補綴物が70%の完成度を持っているとすると、それを100%に近づけるためには、アナログの技術と経験が欠かせません。さらに、その70%の完成度を維持し、向上させるためには、基本的な技術、経験、知識が不可欠です。デジタル技術が進化しても、その裏付けとなる基本的なスキルがなければ、最良の結果を得ることは難しいでしょう。

「デジタルを操る」のか「デジタルに操られる」のか、制作する補綴物はどちらに近いでしょうか？その完成度はどの程度でしょうか？この問いを再確認し、デジタル技術を効果的に活用するために必要なことを見直すことが重要です。目指すべき目標を再認識し、デジタルとアナログの両面から技術を研鑽することで、より質の高い補綴物を提供できるよう努力を続けることが求められます。

略歴 1995年 石川県歯科医師会立 石川県歯科技工士専門学校卒業
1996年 大阪セラミックトレーニングセンター・全日12期卒業
1997~1999年 石川県歯科医師会立 石川県歯科技工士専門学校 専任教員勤務
1999~2004年 大阪セラミックトレーニングセンター 専任インストラクター勤務
2008~2011年 医療法人社団健歯会 イイノ歯科医院 勤務
(梶岡院長独立開業に伴い退職)
2010年 Olal Care クリニカルコーディネーター 取得



義歯臨床を深くする デジタル技術の応用

What is necessary for complete denture treatment, considerations from analog technology.

松丸 悠一 Yuichi Matsumaru

Matsumaru Denture Works

今後、総義歯臨床の需要が少なくなるとは考えにくい。近年、超高齢社会の中で在宅歯科医療や病院歯科などの現場において噛める、話せる、飲み込める、入れていられる総義歯製作の重要性が訴えられ、医療連携の中でも歯科がその専門性を活かすべきと認識されてきている。またその一方では、情報化社会によりインプラントを応用した補綴処置に限らず可撤性義歯でもより良い治療を受けたいという期待に対応することが必要になってきた。その中で、我々は個々の患者が治療に何を求めているのか、またどの程度それに応えることができるのかをマネジメントする必要に迫られている。

演者は総義歯に特化して臨床を行っており、目標となる高い機能回復と、そしてそれ以上に「どのようなアプローチが患者に受け入れられるのか」について日々思索している。総義歯は一本も歯が残存していない状態で粘膜上に咬合を再構築する極めて自由度の高いフルマウスリコンストラクションであり、術者が設定する補綴デザインが患者に受け入れられるかを確認するプロセスが欠かせない。従来より、患者の使用している現義歯や複製義歯の改造、あるいは治療用義歯の製作により、これを行うことも可能であったが、コストマネジメントの難しさ、加えて本義歯への移行する際の技術的な困難さ等より、適切な対応が行いにくい状況が現場にあった。しかし近年のデジタル技術の向上により、この部分の改善、革新を期待できるところとなってきたと感じる。

本講演では演者が複製義歯を治療用義歯として活用した症例を提示し、マネジメントするために必要な基本的知識と、その対応について私見を述べさせていただく。質の高い義歯臨床を求める場合、デジタル技術をどう活かすべきかのヒントとなれば幸いである。



「総義歯臨床を深くするデジタル技術の応用」 デジタルコピーデンチャーを用いた総義歯臨床のポイント

Key points of complete denture treatment with digital copy denture.

松田 謙一 Kenichi Matsuda

HILIFE DENTURE ACADEMY
大阪大学大学院歯学研究科 有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野

近年、歯科治療におけるデジタル技術は、クラウンブリッジ分野においては特に目覚ましく応用が進んでおり、口腔内でのIOSを用いたスキャンから始まり、最終の補綴装置出力までのフローを、デジタルのみで完結するステージにまで進んでいる。

一方で、有床義歯分野の臨床・技工にも徐々にではあるものの、応用が進み始めている。現時点でデジタル技術の応用が積極的に行われているのは、口腔内スキャナ (IOS) を用いた概形印象採得、3D プリンタやミリングマシンを用いた最終の義歯製作 (出力)、IOS、デスクトップスキャナ、CT などを用いたコピーデンチャーの製作、あるいはデジタルデータを利用した現義歯や顎堤の検査や診断などへの応用が考えられる。

本セッションでは、まず義歯分野におけるデジタル技術の応用について、演者なりの見解を述べた後、上記の様な臨床・技工への応用についての臨床例やエビデンスを簡潔に紹介したい。続いて、コピーデンチャーを用いた総義歯製作の臨床応用について以下の様なポイントを踏まえつつ、分かりやすく解説する予定である。

- ①コピーデンチャーのデータ取得方法：IOSによるスキャンのポイント、CTスキャンを利用する方法の可能性、
- ②コピーデンチャーを用いた義歯臨床の利点と注意点、
- ③コピーデンチャーを用いた印象の基本理論と必要なデータ改変について、
- ④コピーデンチャーのデータに対する有用なアレンジ方法、
- ⑤コピーデンチャーを用いた印象と咬合採得の臨床ステップのポイント

本講演を通じて、優れた義歯臨床を実現するためのデジタル技術の応用の有用性やデジタルコピーデンチャーを用いた臨床方法についてのポイントを理解していただけることを願っている。

略歴	
2003年	大阪大学歯学部卒業
2007年	大阪大学大学院歯学研究科卒業
2019年	同上 常勤退職、臨床講師
2019年	HILIFE DENTURE ACADEMY 学術統括責任者
2019年	ハイライフ大阪梅田歯科医院 院長
2020年	大阪大学大学院歯学研究科 臨床准教授



SureSmileのアドバンテージ ～当院におけるSureSmileの位置づけ～

Advantage of SureSmile ~Position of SureSmile in our clinic~

佐藤 洋司 Youji Sato

日本口腔インプラント学会 日本成人矯正歯科学会 歯槽義歯研究所
日本顎咬合学会 東京 SJCD
一水会 OJ 理事

2004年の開業当初から『質の高い治療を総合的に』をコンセプトに小児歯科から審美・インプラント・矯正治療まで約20年間、地域医療に携わってきた。なかでもM.I.の観点から見ても、当院において矯正治療の役割は非常に大きい。今回、アライナー矯正(SureSmile)に特化した内容となっているが、実際のところ矯正治療を始めた当初はアライナー矯正に対しネガティブな印象を持っていたため、ブラケット矯正のみでの対応をしてきており導入したのは4年前と最近のことである。

ちなみにその当時、私がネガティブな印象を持った大きな理由としては、①簡単な症例しか対応できない、②矯正できないDrがやる治療法、③咬まない、④全国的にトラブルが多かった、などが挙げられる。

しかしここ数年におけるアライナーの素材やシミュレーションソフト等の進化は目覚ましく、私のネガティブなイメージもすっかり払拭されたため、

2020年よりSureSmileを臨床導入し現在に至っている。

そこで本講演では、SureSmileのアドバンテージと言えるトリムラインやコスト、CTならびにオーラルスキャナーとのデジタルマッチングなどについて述べるつもりである。

また、アライナーとブラケットそれぞれの利点・欠点を踏まえ、実現性のあるゴールを達成するために、当院ではどのようにケースセレクトしていつているのかなどについても触れたいと思っている。

当日は、他メーカー使用のトップランナーの先生方とのセッションならびに会場の皆様との活発なディスカッションも楽しみにしております。



アライナー矯正が可能にした Face Driven Dentistry

白鳥 裕一 Yuichi Shiratori

白鳥歯科・矯正歯科

昨今、アライナー矯正治療は広く普及し、一般国民にも幅広く認知されている。

アライナー矯正治療はワイヤー矯正治療のような、審美障害、食事の制限、違和感が少なく治療が行えることが大きなメリットである。

では、我々矯正治療を行う歯科医師側にはどのような変化をもたらしたのだろうか？

私は大きく二つのポジティブな変化があったと考えている。

一つは、一般歯科医(GP)が矯正学を学びやすくなったこと。

ワイヤー矯正治療のテクニカルなものから、デジタルを活かしたアライナー矯正治療への変化は、GPが矯正治療を学ぶハードルを下げていることは間違いない。

GPが矯正治療を学びやすくなることで、複雑なインプラント補綴、歯周治療、補綴治療に矯正治療が応用される機会はこれから増えるであろう。

二つ目は、特性の異なるメカニクスを使い分けることにより、治療計画の幅が広がったことである。

ワイヤー矯正とアライナー矯正は得意とする歯牙移動が違う。

これは『どちらが良いか』という議論ではなく、『引き出しが増え、治療の幅が広がった』と捉えるべきである。

今回は二つ目の変化に着目し、アライナー矯正治療により、我々の治療計画と、ゴール設定がどのように変化、進歩したかを考えてみたい。

矯正治療は『診断とゴール設定』が重要なことは言うまでもない。

私の考えでは『ゴール設定』で一番大切なのは上顎前歯の位置である。

上顎前歯は患者の側貌を左右する最重要要素である。顔貌から理想的な上顎前歯の位置を決定し、顔貌の審美と調和の取れた口腔内を実現する、それ『Face Driven Dentistry』である。上顎前歯を理想的な位置に配列するために、ワイヤー矯正では不可能だった移動がアライナー矯正により可能になることがある。その一つがClass症例の下顎歯列近心移動である。

Class症例はケースによっては下顎前歯を唇側へ移動し、上顎前歯の必要以上のリトラクションを避ける必要がある。

これを可能にするのが、アライナー矯正とCTGによるPhenotype modificationであると私は考える

今回、症例を供覧し、これらのことを皆さんと考えてみたい。

略歴
平成9年 岩手医科大学歯学部 卒業
平成9年 秋田大学附属病院 口腔外科
平成12年 能代歯科医療会 鈴木歯科
分院 みなみ歯科 勤務
平成16年11月 さとうデンタルクリニック開院
平成19年 Akita Esthetic Implant Center 設立

略歴
2008年 日本大学松戸歯学部 卒業
2009年 日本大学松戸歯学部矯正学講座 入局
2014年 埼玉県 白鳥歯科・矯正歯科 開業
2023年 神奈川県 秦野IU歯科・矯正歯科 開業
日本矯正歯科学会会員



アライナー矯正における クリアコレクトの優位性

Advantages of ClearCorrect in aligner orthodontics.

甘利 佳之 Yoshiyuki Amari

アマリ歯科・矯正歯科・口腔外科クリニック 院長
ITI Fellow-CID Club 常任理事

近年、一般歯科医の専門分野外であり、敷居の高い矯正治療が、マウスピースを用いたアライナー矯正治療の登場により、治療オプションの一つに加わった。そして、口腔内スキャナー（IOS）の登場によりクリニックにおける歯科医師の院内マネジメント・タイムマネジメントが飛躍的に改善したことも周知の事実である。IOSはその特異性から販売されている企業によりクローズドソース・オープンソースに使用制限がかけられている。それ故に、アライナー矯正治療を行いたいがために専用のIOSを準備しなければいけない環境であった。しかし近年、オープンソースを受け入れるアライナー装置が世界で普及し、日本にも各企業が輸入し販売を開始した。その中でStraumann社はインプラント治療におけるデジタル化を行い、そのIOSを活用し天然歯の補綴だけでなく、インプラント治療を行っている歯科医師に対し、歯列のマネジメントを行える魔法の剣をもたらした。Straumann社が導入したクリアコレクトは、オープンソースな為、様々なIOSからSTLデータを受け、一般歯科医に複数台のIOSを購入しなければいけなかった状況に革新をもたらした。世界シェアNo.2のクリアコレクトを導入し使用して治療の選択肢を増やしてみても如何でしょうか。今回、クリアコレクトにおける優位性など、症例を交えて解説したい。



10年後デジタル技工士として 活躍するために

横田 凌輔 Ryosuke Yokota

ごうだおとなこども歯科 歯科技工士

2020年に歯科技工士免許を取得し、現在私は5年目の歯科技工士である。現在勤めている医院では約2年間勤務しており、デジタル技工を中心に自分を含めて3人の技工士で活動している。本院の他に分院が現在3つあり、本院を含め合計4つの歯科医院を3人の技工士で手分けして技工物の製作に励んでいる。

現状デジタル技工が中心の勤務形態になっており、保険のCAD冠や自費のジルコニア等を（in Laboソフトを使用）作成している。メタルの補綴や医院のマシンで再現不可能なケースのデジタル技工などは外注しており、いずれは医院の中でもそれらの技工作業も行える技術を携えておきたい。しかし、今の私の技術力のままだと10年後の歯科技工業界にはついていけず、取り残される可能性が高い。そのためまずはデジタルで解剖学的な歯牙の形態を再現できるようになる必要があるがなかなか理想の形態をデータ上で再現できていなかった。その対策として医院の理事長が外注先として信頼をおく先輩技工士さんの助言の元、10年後のための取り組みを開始した。2年間それらを行い少しずつではあるが成果が見られた。

今後は自分でも審美的、機能的に満足のできる技工物を患者様に提供できる技工士を目指して日々精進していきたい。

略歴	年	内容
	1996年	日本大学歯学部卒業 中久木矯正歯科センター 勤務（東京都新宿区）・甘利歯科医院勤務 非常勤（千葉県柏市）
	1999年	アマリ歯科クリニック 開業（東京都中野区）
	2019年	日本口腔インプラント学会専門医認定
	2020年	日本大学歯学部大学院歯学研究科歯学専攻博士課程入学 日本口腔インプラント学会 優秀論文賞 授与
	2022年	日本顕微鏡歯科学会認定医認証
	2023年	アマリ歯科・矯正歯科・口腔外科クリニック 名称変更
	2024年	日本大学歯学部大学院歯学研究科歯学専攻博士課程修得 博士（歯学） 日本歯科放射線学会歯科用CBCT認定医



インビザラインスマイルアーキテクトと CAD/CAMシステムを活用した ラミネートベニア症例

富永 知穂 Shiho Tominaga

医療法人ひかり歯科クリニック 歯科医師

2023年3月にインビザラインスマイルアーキテクトがリリースされ、補綴前矯正においてデジタルワックスアップを併用した矯正診断が可能となった。そこで今回、口蓋側への転位を認める#12#22矮小歯を有する症例に対し、インビザラインGOスマイルアーキテクトおよびCAD/CAMシステムを活用したので発表する。補綴前矯正としてインビザラインGOを選択し、矯正診断と同時に#12#22矮小歯へのラミネートベニアのデジタルワックスアップを行った。矯正診断時に補綴シミュレーションを行えることで、矯正による歯牙移動を具体的に決定する一助となり、補綴診断において数値的な診断が可能となった。また、患者への治療計画立案においても、治療後の口腔内可視化を可能とし、その後の治療における患者協力へ非常に貢献した。本症例における、各ステップの診断基準、術式と留意点について考察する。本症例発表が、デジタルデンティストリーの現在と未来への可能性を拓き、今後の一般歯科診療におけるデジタル活用のさらなる一助となれば幸いである。



オープンシステムを組み合わせた これからのデジタル歯科診療

木田 智久 Tomohisa Kida

歯科医師 JSCAD 北海道支部

I. 背景と目的

近年各スキャナー、ミリングマシン、CAD/CAMメーカーのオープンシステム化により、一つのメーカーに縛られない一連の補綴物作成のシステム導入が可能になった。当院ではIOSであるMEDIT i700を2年前に導入しスキャンのみに用いていたが、昨今の技工士不足により補綴物の供給が不安定になったことを受けチェアサイドミリングマシンCEREC MCXと技工用CAD/CAMソフトInLabの導入を行った。これにより小規模な歯科診療所であってもインハウスでの単冠補綴治療が可能となった。本発表では他社のIOS、ミリングマシン、CAD/CAMシステムを組み合わせて運用を行っている当院の現状を報告する

II. 方法

i700,MCX,InLabを用いて単冠補綴物の作成を行い、インハウスでの治療を行った

III. 結果

他社のシステムを組み合わせてもインハウスでの単冠補綴治療は可能であった

IV. 考察及び結論

他社のIOS、ミリングマシン、CAD/CAMシステムを組み合わせても単冠補綴物が作成できるのであれば一つのメーカーに縛られることなく、歯科医院の現状に合ったIOSの導入が可能である。また、その後自分の臨床に必要なシステムを追加できることは、小規模歯科診療所では大きなメリットである。

今後各システムはますます進化していくと考えられるが、オープンシステムの組み合わせることで、必要に応じた追加導入が可能であることを確認できた

V. 今後の展望

今後別のシステムを導入することになれば、その性能の違いによる新たな臨床結果が確認できるであろう。追って報告したい



スキャンボディの連結が デジタルスキャンの精度に与える 影響について検証した一症例

山本 英樹 Hideki Yamamoto

医療法人英歯会 三国丘歯科クリニック 歯科医師

近年、天然歯の補綴物作製において、口腔内スキャナー（IOS）を用いるデジタルスキャンの技術は、十分な臨床的精度が得られるまでに発展している。そのため、最近ではインプラント補綴の製作においてもIOSが応用されるようになってきている。特に、単独インプラントや少数歯欠損に対するインプラント補綴では、その精度はすでに臨床応用のレベルにある。一方で、フルアーチインプラントの補綴については、未だ十分な精度を得るに至っていないとする報告が多く、その予知性に関する評価は定まっていない。その中で、Augusta 大学の Luciano Retena らは、スキャンボディを連結固定することが、フルアーチインプラントに対するデジタルスキャンの精度向上に有用であることを実験的な模型解析から報告している。今回、われわれはフルアーチインプラントの補綴において、口腔内でスキャンボディをカスタムジグで固定した上で、プライムスキャンによるデジタルスキャンを用いて上部構造を製作した症例を経験した。本症例では、治療過程でスキャンデータの精度についても検証したところ、適正な臨床的精度を持つ上部構造が製作できたと考えられたので報告する。



デジタル化により簡便になった インプラント補綴を含めた 矯正治療の考え方について

谷山 隆一郎 Ryuichiro Taniyama

歯科医師 九州支部

矯正治療において、診断用の石膏模型を使用したセットアップ模型は多くの利点があるが、いくつかの課題も存在する。石膏模型の製作には時間がかかり、煩雑な作業が必要であるため、保管や取り扱いが難しい。また、模型は壊れやすく劣化しやすいため、長期保存が困難である。さらに、歯の移動に対するアナログな手作業が正確性を欠くこともある。

デジタル技術の導入により、これらの問題は大幅に改善される。デジタルスキャンを用いることで、石膏模型なしで迅速かつ正確な治療計画が可能となる。デジタルデータは物理的なスペースを取らず、劣化もないため、保管や管理が容易である。さらに、デジタル技術により、セットアップ模型の精度が向上し、インプラント治療における埋入位置の決定やデジタルガイドの使用がより効果的に行えるようになった。今回、症例を提示し、デジタル技術の利点と手順について考察した。



Winjaw を用いた kinematic axis および terminal hinge axis を用いた ヒンジ位置の検証

井上 高暢 Takano Inoue

こばやし歯科クリニック 歯科医師

顎関節運動の記録技術は、歯科医学の進歩とともに大きく発展してきた。従来のパントグラフ法では、側頭部に取り付けた鉛筆で顎の動きを描画していたが、コンピュータ技術の導入により、軌跡だけではなく、より精密な回転および滑走運動の記録が可能となった。さらに、測定位置も側頭部から前歯部へと移行し、より簡便なデータ採取が実現された。測定方式も進化を遂げ、接点方式から光学式や超音波方式などと多様化してきた。本研究では、超音波技術を活用した Winjaw システムを利用した際の、kinematic axis と terminal hinge axis の二つの軸を用いて採取した顎運動路の比較分析を行った。Sagittal condylar inclination (SCI) 及び Relative condylar inclination (RCI) の数値の比較を行い、それぞれの特徴について紹介する。また、顎関節症の患者の顎運動について例示する。



前歯部先天性欠損歯に対するインプラント治療のためにアライナーで術前矯正を行なった1症例

匠原 龍太郎 Ryutaro Shohara

しょうはら歯科 歯科医師

前歯部に先天性欠損歯がある場合、欠損の空隙により歯牙が移動してしまい、審美的障害を呈することが多い。このような前歯部の欠損に対して我々 GP がインプラント治療を行う場合、矯正医と連携して現存する歯牙のレベリング、正中の一致、インプラントスペースの確保、隣在歯の歯根方向の改善を行ってもらい、術前矯正を行ってからインプラント埋入を行っていた。

近年、アライナー矯正が普及し、我々一般開業医において矯正治療を行う機会が増加した。アライナー矯正は口腔内スキャンを行い、デジタル上で治療計画を立案し、術前シミュレーションを行うことが可能である。つまり、治療計画を立案する段階で、歯牙の位置、空隙量、歯根の角度などを詳細に設定できる。

今回、上顎前歯部先天性欠損を有する患者に対して、アライナーで術前矯正を行なったのち、インプラント治療を行い審美的に改善した症例を経験したので報告する。



デジタル矯正を併用して 機能的かつ審美的な前歯部補綴を目指した 臨床ケース

末木 芳佳 Yoshika Sueki

医療法人千志会 毛呂歯科医院 歯科医師

昨今デジタル矯正は珍しくないものとなっているが、まだまだ歯科業界に浸透しているとは言いがたい。また正しく行なわれないと思っような治療結果が得られず、トラブルや患者の不利益につながるようになるようなこともある。ただし、私の考えとしては、適切に取り入れて自身の診療スタイルの引き出しの一つとして駆使すれば非常に患者メリットを生む手段となる。

審美歯科治療の臨床ケースを提示する際、よく上顎前歯部のみの写真を提示するケースが多々見受けられるが、対合歯との関係、機能的な側面はどうなっているのだろうか、考えさせられることはよくある。

また、咬合や歯牙の位置関係を補綴治療だけで無理に補正することは、長期的にみてトラブルを生むことになり、その責任を取るのは自分自身、ということになる。

今回は自身の臨床ケースを提示しながら、デジタル矯正を併用することによって、可能な限り無理のない補綴装置の形態を目指し長期安定性をねらったケース、デジタル矯正の苦手な部分をワイヤー矯正で補ったケース等を提示し、より良い治療結果を目指すために自分なりに気をつけた点、今まで培ってきた治療方法を駆使した点などをお話したい。その上でデジタル矯正の将来性、メリット、デメリット、またデメリットを補うための手段、GPが行うからこそそのデジタル矯正の有用性などについて皆様とディスカッションできる機会にしたいと考えている。



デジタルソフトウェアとサージカルガイド用 NY オステオトームを利用した 上顎臼歯部インプラントの攻略法

吉橋 典章 Noriaki Yoshihashi

医療法人社団グッドブリッジ 歯のクリニック 東京歯科医師

近年インプラントの上部構造はセメント流出を考慮してスクリュー固定式を選択するケースが増えてきた。スクリュー固定の場合アバットメントによる角度補正ができない為トップダウンで埋入位置を決め、正確な方向と深度のフィクスチャーの埋入が必要となる。そこでサージカルガイドとサージカルガイド用ドリルを使用する事が増えてきた。しかし上顎臼歯部の場合はどうでしょうか？現在サージカルガイド用ドリルまでは正確なインプラント埋入窩が形成できるが従来のオステオトームには被ガイド部がない為、このフェーズで計画通りの正確な方向と深度の形成ができず、意図しない方向にフィクスチャーが埋入され、セメント固定を余儀なくされる事がある。そこでデジタルソフトウェアでの計画と設計、3Dプリンタでのサージカルガイドの作製、方向と深度を制御できるサージカルガイド用のNY オステオトーム、CAD/CAMによる上部構造の作製により計画通りのオペが可能になる術式を考案した。2022年のシステマティックレビューで上顎洞での平均的なセプタの発生率は33.2%という報告がある。インプラント埋入部位にセプタがあった場合どうされていますでしょうか？今回はこのセプタがある症例の攻略法を報告させていただきます。本術式は設計からデータエクスポート、サージカルガイド作製を含め4千円程度であり、歯科技工士の援助なく歯科医師1人で完結できる事も重要である。



限局型慢性歯周炎患者にIOSを用いて 審美修復を行った1症例

野村 陽介 Yosuke Nomura
はらまち歯科クリニック 歯科医師



患者の行動変容を促す歯ブラシ指導:iTero Design Suite による個別化された3Dプリント模型の活用

榎本 愛美 Manami Enomoto **小室 さあや** Saaya Komuro
医療法人社団千志会 毛呂歯科医院 歯科衛生士 歯科技工士兼助手



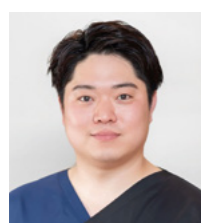
CAD/CAM用二ケイ酸リチウムガラスセラミックスの 熱処理前後のクラウン適合性評価

村田 祐輔 Yusuke Murata **秋山 茂範** Shigenori Akiyama
株式会社ジーシー [歯科材料メーカー]



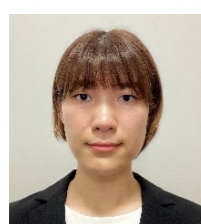
新人スタッフのための 口腔内スキャン習得指導プログラム

中丸 聡子 Satoko Nakamaru
歯科医師



Intraoral Scannerを使用して 局部床義歯を製作した一症例

神山 大地 Daichi Kamiyama **佐久間 利喜** Toshiki Sakuma
ZERO DENT 合同会社 歯科技工士



上部構造の接着に影響を及ぼす チタンベースの表面性状の調査

阿邊 美里 Misato Abe
株式会社ジーシー [歯科医療総合メーカー社員]



真のメタルフリーを目指して ～保険適応CAD/CAMで良いんですか?～

高橋 佐智子 Sachiko Takahashi **富澤 千恵美** Chiemi Tomizawa **熊谷 美和** Miwa Kumagai
ライフタウン歯科クリニック 歯科衛生士



AI技術を使用した歯冠補綴の設計の現状と 歯科技工士のこれからの展望に関する考察

鹿原 波乗人 Minato Kabara
医療法人桜青会グローバルデンタルラボ 歯科技工士



インプラント上部構造印象時における 臨床フローに関する考察

三上 晃太郎 Kotaro Mikami
医療法人桜青会 歯科医師



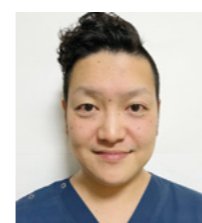
片側遊離端欠損にインプラント埋入し 光学印象を用いて上部構造を製作した一例

向山 泰泉 Hiromoto Mukaiyama
歯科ニュージャパン 歯科医師



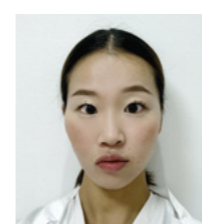
セラミック治療に繋げる カウセリングシステムとは

藤原 麻衣子 Maiko Fujiwara
医療法人三矢会 池田歯科診療所 TC (トリートメントコーディネーター)



一口腔内で臨床経験と接着方法の違いにより 経過に差が生じたオクルーザルベニア症例

佐々木 翔 Sho Sasaki
医療法人英雄会 高松歯科医院 歯科医師



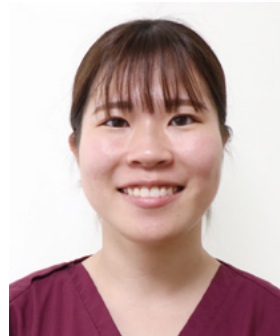
セラミック治療の鍵を握る ベーシックアシスタントワーク

佐藤 栞 Shiori Sato
医療法人三矢会 池田歯科診療所 歯科助手



デジタルを用いた矯正治療, フリーソフトを用いた ミニスクリュー用サージカルガイドの作製

諸隈 優野花 Yunoka Morokuma
こばやし歯科クリニック 歯科医師



歯科医院における 歯科衛生士のデジタル活用について

寺西 菜実 Nami Teranishi

和田歯科医院

近年、歯科領域でもデジタル化が急速に発展してきております。歯科衛生士業務のデジタル活用は歯科の他職種に比べてやや遅れてスタートしていましたが、当院でもようやく軌道に乗りつつあります。私たち歯科衛生士の仕事は、来院者により良い口腔ケアを提供するだけでなくセルフケアの確立をサポートすることです。デジタルを活用することが目的ではなく、来院者の健康の質の向上に役立つことが大切です。今回のセッションでは歯科衛生士として、デジタルツールを使って来院者にどう役立つかを考えていきます。当院におけるIOSやマイクロなどを使った歯科衛生士領域でのデジタル活用の事例を共有させていただきます。



当院における歯科衛生士の デジタルとの向き合い方

後藤 真理 Mari Goto

片山歯科医院

当院はセレックシステムを2009年に取り入れ、それを期にデジタイゼーションを用いて地域医療に貢献してきた。当時ドクター主体で行われていた補綴のためのデジタイゼーションから、現在は歯科衛生士主体で行われるデジタイゼーションも多くなってきたと実感している。今回は当院における歯科衛生士のデジタルへの向き合い方を紹介する。IOSによる印象採得から、3Dプリンターを用いての患者説明用模型を作製するなど、3Dプリンターは様々な使い方ができるため、我々はとても重宝している。このデジタルデンティストリーにおいて、歯科医師のみならず、歯科衛生士も3Dプリンターの知識を習得し、使用できると良いのではないかと。



デジタルデンチャーへの道 アナログをそえて

岩切 莉幸 Risa Iwakiri

医療法人三ツ矢会池田歯科診療所 歯科技工士

今、広がりつつあるデジタルデンチャー。しかしながらすべての作業がデジタル化されているわけではありません。これまでのアナログ作業をデジタルのワークフローとどのようにつなぐのかを当院のワークフローを総義歯のケースを例にお話させていただきます。



CAD/CAMシステムをどう活かす？ ～CAD/CAM導入医院の歯科助手として求められること～

岩崎 琴美 Kotomi Iwasaki

なかい歯科クリニック 歯科助手・トリートメントコーディネーター

近年の歯科医療にCAD/CAMシステムが導入されたことにより診療の効率化と治療精度の向上に大きな革新をもたらしました。また、マスメディアなどに取り上げられる機会も多くなり、歯科医療関係者だけでなく一般の方々の目に留まることも多くなりました。実際、日常の臨床の中でも患者様から歯科用CAD/CAMについての質問をされることも少なくありません。歯科用CAD/CAMというワードの認知度も上がり、今後さらなる発展を見せることと思います。しかし、CAD/CAMの保険適用の幅が広がった一方で、自由診療率の低下がみられるようになりました。歯科スタッフがCAD/CAMに関する正しい知識を持ち、専門的なサポートができるスキルを身につけることで患者様一人ひとりに合わせたより良い治療の提案ができます。そこで、今回は日常の臨床の中で患者様への治療の提案の際にどのようなことに気をつけているか、自費率を向上させ、医院経営の強みとなるためにどのような工夫をしているかをお話させていただきます。



口腔内スキャナーを用いた 行動変容を促すTBI

根岸 香南子 Kanako Negishi

こばやし歯科クリニック 歯科衛生士

歯科治療において、デジタル化の波は顕著に到来しています。
2024年6月よりインレー修復に光学印象が保険収載されました。
今後IOSがより身近になることにより歯科衛生士のメンテナンスにおいても
今後スキャナーを用いたTBIが進むと思われます。
患者のスキャンデータを共有することにより行動変容を促し、
来院していない日々のセルフケアの手助けになる、
当院でのシステム作りの取り組みについてご紹介させていただきます。



ごく一般的な歯科医院における デジタル化への取り組み

竹本 あみ Ami Takemoto

(医) 侑徳会たつや歯科医院

近年IOSなど様々な機器が開発され急速な進化発展を続けています。ごく一般的な歯科診療所である当院においても、CERECやiTeroなどのデジタルを活用した治療や矯正、OHI、記録の整理などを遅ればせながら行っているところです。

この発表では、IT技術を用い始めたことによりデジタル化がどのように進むのか、さらには医療DXというものにどう昇華していけば良いのかを成長過程の一診療所の立場から紹介したいと思います。

また発足されたばかりのJSCAD衛生士部会にどのように寄与できるのかを提案してみたいと考えています。



三方向のホスピタリティ デジタルの時代だからこそ大切にしたい コミュニケーション

今泉 麻衣子 Maiko Jasmine Imaizumi

株式会社グランジュテ・インスティテュート 代表取締役
ホスピタリティ・コンサルタント
ビジネスジェット客室乗務員

デジタルの時代だからこそ、対人関係がより大切になってくる... そんな中でこれからの医療はどうあるべきか。この講演は改めて「ただ患者様の口の中を診る」だけではなく、彼らの心に、もっとというならば患者様の人生に寄り添うことの必要性を様々な観点から学ぶことができるのではと思います。

プラスアルファの優しさで心を繋げ、患者様に「安心感と信頼関係」を提供しながら「心に寄り添う医療」を提供できたなら... 歯科クリニックがこれからの時代に「選ばれる」ためには、具体的にどのような視点で設備の環境やスタッフのレベル向上に向けて努力していくのが良いのでしょうか。

そして「医療にはホスピタリティが大切」とは聞くものの、実際にどのような心掛けでどう行動したら発揮できるでしょう。患者様だけでなく、一緒に働く仲間や自分自身にも向ける「三方向のホスピタリティ」を知り実践することで、職場での人間関係や自己肯定感が大きく変わることも可能です。

また「レジリエンス(困難な状況をしなやかに乗り越える力)」についてもお話します。レジリエンスを持つことで、仕事や家庭生活などに対する心構えや人間関係がどのように変化するでしょう。ストレスフルな現代社会において困難と思われる出来事を、逆境に負けない回復力でしなやかに乗り越える事ができると、自分や相手がどう変わるのでしょうか。

日本におけるプライベートジェット客室乗務員の第一人者として18年半もVIPのお客様に選ばれ続ける講師が「選ばれる医療」「三方向のホスピタリティ」「レジリエンス」のトピックを、世界83カ国を旅しながらお客様と心を繋げてホスピタリティを提供してきたエピソードと共にお話します。プライベートジェットの中で提供される究極のサービス、というと遠い世界のお話のように思えますが実は、私たちの普段の生活にも十分に参考にして活かす事ができるマインドセットを、この講演を通してお伝えできればいいなと思います。



ISO 臨床における歯科衛生士分野の基礎知識

Fundamentals of the Dental Hygiene Field in IOS clinical Practice

河野 充子 Mitsuko Kono

日本臨床 CAD/CAM 学会指導歯科衛生士 日本歯科審美学会
日本顕微鏡歯科学会認定歯科衛生士 日本臨床歯周病学会

歯科衛生士においてもデジタルデンティストリーの波が押し寄せている中、歯科衛生士業務も進化するデジタルデンティストリーに合わせ変化してきています。ISO の登場は歯科医師だけでなく歯科衛生士にとっても多くのメリットをもたらす大きな存在になりました。従来の印象採得法に代わるだけでなく、患者さんや術者のストレスが大幅に軽減、チェアタイムの短縮、安定した高精度の印象採得。また、データでの情報共有のため、歯科医院、歯科技工所での相互感染になりにくく石膏模型を保管するといったことがなく保管場所を必要としないなどが挙げられます。

歯科衛生士としてのデメリットは情報収集がおいつかないということや、ISO 本体にデータを保管する場合、容量不足に悩まされることが挙げられます。また、患者入力を間違えると患者情報を呼び起こせないことがあるため入力項目を決めておかないといけないことが最大の悩みとなります。

私は日本でもこの分野の第一人者である歯科医院に勤務する中で多くの機種と触れる機会に恵まれ、結果的に多くの機種の重さ、操作の違い、年代での取扱いのコツの違いなどを日常の臨床で理解しながら使いこなすようになりました。

今回は、ISO で一体何ができるのか？ ISO のメリット・デメリット、ISO の構造、ISO 本体の持ち方と管理の仕方、補綴装置部分の撮影の工夫など ISO を臨床で活用する際に必須の臨床における歯科衛生士分野の基礎知識についてフォーカスしてお話をしたいと思います。



デジタル技術を活用した歯科衛生士の業務効率化

Improving the work efficiency of dental hygienists using digital technology

濱田 真理子 Mariko Hamada

歯科衛生士部 認定指導歯科衛生士
関東甲信越支部会歯科衛生士部長

デジタルの世界様々な技術により、歯科衛生士の業務効率化が実現されると同時に継続来院中の患者満足度も向上しています。デジタル化より患者情報の管理が迅速かつ正確に行えるようになり、データの検索や更新が簡便化され患者との適切な関係性を構築することにも役立っています。医療会話に関する関与もデジタルイメージング技術を用いることで、口腔内の詳細な画像が得られ、診断や治療計画がより正確に行えることで臨床現場でも情報管理面でも貢献しています。CAD/CAM 技術によるクラウンやインレーの即日製作が可能になり、患者の治療での通院回数を減らし予防歯科への移行もスムーズに出来ているという事例もあります。デジタル技術は手作業による人的ミスを減少させ、業務の効率化とともに患者の安全性向上にも寄与します。

デジタル技術の導入は、歯科衛生士の業務効率化と質の高い治療提供を実現するための重要なツールとなっています。導入には初期コストや習熟が必要ですが、長期的な観点で見ると、診療の質と効率以外にスタッフ育成・患者管理など様々なメリットがあります。今回は短い時間ではありますが、CASE-1. デジタルツールやソフトウェアを用いた患者情報の管理について、CASE-2. オンライン予約システムの導入とそのメリットとこれからの可能性、CASE-3. デジタルチャート活用による診療記録の患者管理と情報共有、CASE-4. E ラーニングやウェビナーを利用した継続教育、CASE-5. シミュレーションソフトによる実技トレーニングの強化、など全国各地でデジタル化を導入した歯科医院の導入前・導入中・導入後についてお伝えしていきます。



顔の美しさを引き立てるための歯科治療：顎顔面からのアプローチ

Enhancing Facial Beauty through Dental Treatment: A Maxillofacial Approach

矢野 章 Akira Yano

Yano Dental Clinic

講演「顔の美しさを引き立てるための歯科治療：顎顔面からのアプローチ」は、美容歯科と顎顔面外科の最新技術を駆使して、患者の顔全体の美しさを追求するための総合的なアプローチを取り上げます。本講演では、咬合や顎関節のバランスを整えることに加え、顎顔面矯正や顔の輪郭・プロファイルを改善するためのボトックス、ヒアルロン酸、脂肪溶解剤などの美容材料の使用についても詳しく解説します。

ボトックスを用いた筋肉のリラクゼーション、ヒアルロン酸による輪郭の修正、脂肪溶解剤を用いた部分的な脂肪の減少、そして顎顔面矯正による骨格のバランス調整は、笑顔を引き立てるための効果的な手法です。これらの美容材料や矯正技術は、従来の歯科治療と組み合わせることで、顔全体の調和を向上させ、患者の自然な美しさを最大限に引き出します。また、これらの技術は、非侵襲的で回復時間が短い点でも優れており、患者満足度の向上につながっています。

講演では、顎顔面の解剖学的構造と美容歯科の相互作用を理解することの重要性に加え、顎顔面矯正や美容材料を用いた治療がどのように顔全体の美しさと機能の両方を向上させるかについても議論します。これにより、参加者は患者のニーズに応じた最適な治療計画を立てるための知識と技術を習得できるでしょう。

この講演は、美容歯科や顎顔面外科の分野で活動する歯科医師にとって、最新の治療法と材料を取り入れたトータルアプローチを学ぶ絶好の機会です。

略歴	1986年 日本大学松戸歯学部卒業
	1989年 東京調布市にて矢野歯科医院を開業
	現在に至る



歯科衛生士, スタッフとして, 知っておいて欲しいデジタルの話

片山 慶祐 Keisuke Katayama

歯科衛生士部担当

世間はDX化を進めている中、2024年6月にCAD/CAMインレーのIOS（口腔内スキャナ）を用いた光学印象がとうとう保険取載され、歯科界にもますますのデジタル化の波が押し寄せている。しかし、歯科医院のデジタル化というのは、歯科医師のみで成り立つものではなく、スタッフ全員が同じ方向を向いてこそ成り立つものである。今回は、医院全体がデジタルワークフローを行うにあたって、知っておいて欲しい知識を話そうと思う。IOSの使い方は修復物、補綴装置の為に印象はもちろんのこと、インプラント治療、矯正治療、治療計画、コンサルテーション、デジタルOHIなど、多岐にわたるのを知っての通りであろう。IOSを使うことの利点欠点など、特性を学び、明日からの臨床と向き合っていたきたい。そしてその先に、歯科衛生士達がデジタルを用いて医院をひっぱっていくという未来があるのではないだろうか。



歯科衛生士の未来を語る 国民皆歯科健診と デジタル技術の融合の現状

濱田 真理子 Mariko Hamada

歯科衛生士部 認定指導歯科衛生士
関東甲信越支部会歯科衛生士部長

医療教育の現場にDXの採用が加速しています。アナログとデジタルを組み合わせた教育手法の例として弊社では4プロセス（テキスト学習・タスクベース動画学習・自己評価・指導者フォロー）を活用しています。教わる側の積極的な参加と自己反省を通じて教育の特徴だった【教える&教わる】から【共の育つ=教育】環境を向上させています。デジタル教育の浸透した医療環境。当日は東京本社からの遠隔教育例をご紹介します。

デジタル技術の拡大は予防歯科や口腔ケアの効率化と質の向上に大きな可能性をもたらします。●遠隔診療・テレデンティストリーの活用；遠隔地に住む患者や移動が困難患者のデジタルツールを活用したオンライン健診 ●AIによる診断支援：携帯+人工知能（AI）を活用した画像診断技術 ●データ管理と予防ケアのパーソナライズ化。当日は現状で歯科医院内健診以外で活用されているサービスをいくつかご紹介させていただきます。



スタッフの能力を最大化する 歯科衛生士が身に付けるべき提案力

菅原 舞子 Maiko Sugawara

歯科衛生士

スタッフの皆さんの能力を最大限に引き出せていますか？
良い診療メニューがあっても、お勧めしなければ契約はできません。
元ブライダル業界のトップセールスウーマン・歯科衛生士のふたつの経験を活かして、
ホワイトニングだけで月200万円を売り上げた実績があります。
ホワイトニング・インビザラインなどの自費治療契約率アップと、
スタッフのモチベーションが上がる環境作りをクリニックが自走できるよう伴走型で行なっています。
矯正やインプラント、補綴なども、自費契約に繋げるポイントは「患者様の人生に寄り添うこと」です。
「伝え方一つで患者様の人生が変わる」「患者様のファン化で歯科衛生士の人生が変わる」
保険も自費もスタッフが自ら動ける体制作りのコツをお伝えします。



矯正診療での活用と 歯科衛生士のこれから

松江 亜美 Ami Matsue

歯科衛生士

私は歯列矯正分野を中心に衛生士活動をしていますが、近年デジタル技術の活用が著しく進んでいます。当院でも資料採得やセファロ分析の補助・アライナーやブラケットのセットなど衛生士が治療に関わる範囲が大幅に拡大しました。これによりドクターの負担軽減や治療効率化に貢献しています。また治療データやアポイントなど患者データをデジタルによってやりとりすることで、矯正治療に関わらず、協力医や本院分院間の連携など医院運営上でも大きな恩恵を感じています。
一方、近年顎運動や顔面3D情報のデジタル化も進んでおり、今後これらのデータを衛生士が初診時から採得し、既存の口腔内やデータと重ね合わせ・分析・カウンセリングなど治療に役立つ時代が来ると確信しています。当院でも衛生士を中心に、データ採得の練習を始めています。衛生士としてデジタルデータの理解と活用に向け、さらなる研鑽が必要だと感じています。



院内完結型システムにおける ISO の有用性

河野 充子 Mitsuko Kono

歯科衛生士本部部长

院内完結型システム＝即日修復（1 day トリートメント）ですが形成から印象そして接着をして完了するのが一連の流れだとまだまだ主体的に捉えがちのようですがこの治療重視型の考えでは本当の治療ではありません。齲蝕という疾患を予防的にアプローチしてから修復処置をするのが長期的な成功につながります。今回歯科衛生士の視点から即日修復の有用性について患者さんにどのような方法でアプローチをし患者さんのモチベーションと価値観をあげているのか、更にはアシスタントによる即日修復中のチェアサイドで患者さんにどのように説明をお伝えをしているのかを話したいと思います。

歯科衛生士
セッション



歯科衛生士として知っておきたい CAD/CAM 技工の事

永田 翔大 Shota Nagata

CAD/CAM ラボラトリーハピネスクリエイト
歯科衛生士 歯科技工士

歯科衛生士として、歯科技工の基本的な知識を持つことは、日々の業務や患者ケアにおいて非常に重要です。特に近年では、CAD/CAM 治療の導入が進んでおり、補綴物の設計・製作をパソコンですることによって、従来の方法よりも高精度かつ短期間での治療が可能になりました。それにより患者への負担が減り、時間軸で見ても効率的な治療を提供する事が可能になりました。CAD/CAM 治療の基本的な流れや材料、操作の理解は歯科医師の側で共に臨床を行う歯科衛生士にも欠かせないスキルです。患者に寄り添ったケアを提供するためにも、これらの技術や知識を身につけておくことが重要かと思えます。本講演では技工材料による違いと気をつけて欲しいポイント等をお伝えします。



唾液検査用装置 SillHa を使った カウンセリング

梶原 貴子 Takako Kajiwara

ライフタウン歯科クリニック 歯科衛生士

私たち歯科衛生士が患者の口腔内管理をしていく上で重要になってくるのは、患者自身の状況をわかりやすく伝えるのが最大のポイントになってくる。メンテナンスの際に問題点を簡潔に伝えるためのツールとして IOS や口腔内写真を使って説明をしているが、カリエスリスクが高く食生活の改善が必要だと感じられる患者に対しては唾液検査用装置 SillHa を使用したカウンセリングも行なっている。また、自身の唾液の性質を患者に理解させることで、個々に合ったセルフケア用品や治療方法を客観的に提案でき、偏った食生活なども見直すきっかけにも役立つようになったと感じている。当院での SillHa の活用方法を紹介したい。

歯科衛生士
セッション



コミュニケーションツールとしてのフェイススキャンの利用

新沼 里紗 Risa Niinuma

歯科衛生士

コミュニケーションをする上でデジタルツールは欠かせない存在となった現代である。例えば、昔は手紙、電報などがメールや電話に、メッセージアプリへと進化してきた。現在は zoom などといったテレビ電話を日常でごく当たり前に使うようになった。

歯科のデジタル化において IOS で歯の状態を記録すること、共有することが容易になり普及してきた。さらに、フェイススキャナーを利用することでより広範囲かつ多角的に情報共有できるようになるであろう。

今回はフェイススキャンを利用して患者管理およびコミュニケーションについての例をご紹介します。



MEDIT Linkの便利なフリーソフトは「使わにゃ、損々！」

MEDIT Link's useful free software is "a waste not to use"

難羽 康博 Yasuhiro Nanba

デンタル CAD トレーニングスクール アスパイア 代表
新東京歯科技工士学校非常勤講師

『MEDIT Link』とはスキャナーメーカーの MEDIT 社が提供しているクラウドサービスで、歯科医院と歯科技工所間のコミュニケーションを効率的に支援するコラボレーションツールです。その中にさまざまな完全無料のソフトが用意されており、MEDIT 製品のユーザーでなくても自由に使うことができます。「ホントに完全無料？」と疑問を持つほど完成度が高く、かつ利用者にとって大変使いやすく作られており、使うたびに感心しています。この使いやすさというのは、デザインの進め方、表示されるアイコンなどが利用者にわかりやすいようにデザインされていて、いわゆる [UI] (User Interface) が優れているということです。著者が利用したことがあるソフトは、

- ・ClinicCAD：インレー、クラウン、ブリッジ、テンポラリーのデザイン
- ・Medit Splints：スプリント（ナイトガード）のデザイン
- ・Medit Design：歯科版メッシュミキサー
- ・Medit Model Builder：3Dプリンター用のモデルデザイン
- ・Medit Ortho Simulation：矯正用シミュレーション

です。無料ですので歯科大学や技工士学校においての教材ソフトにも向いていると思います。また、これから CAD を始めようとしている方にも有用です。まさに演題通り「使わにゃ、損々！」のソフトです。セミナーではデモンストレーションと動画で使い方・便利さをお伝えします。質疑応答をしながらのライブデモの予定です。

略歴

- ・島根県歯科技工士学校卒業
- ・地元の歯科医院勤務後、上京、「咬合」に興味を持つ
- ・桑田正博研修会シニアコース修了
- ・国際デンタルアカデミー DTS13 期修了
- ・早稲田歯科技工トレーニングセンター 3 期修了一彫刻部門 1 位
- ・臨床経験後、早稲田歯科技工トレーニングセンター常勤の主任インストラクターに就く
- ・咬合と顎関節症の勉強が高じて「東京整体療術学院」修了。整体師として実務に就く
- ・早稲田歯科技工トレーニングセンター戻り、統括マネージャーに就く
- ・早稲田歯科技工トレーニングセンター CAD/CAM クラスインストラクターに就く
- ・ストローマンジャパンの CAD/CAM スペシャルテクニカルサポートに就く
- ・2017 年デンタル CAD デザイントレーナー（アスパイア）として起業
- ・2023 年新東京歯科技工士学校非常勤講師に就く（3shape のデザイン実習）



歯科治療において CAD ソフトが生み出す臨床的付加価値とは

森 朋智 Tomonori Mori

(株) ファインロジック代表取締役副社長 日本臨床歯科学会大阪支部会員
日本歯科技工士会会員 (大阪府) 日本顎咬合学会認定技工士

近年補綴領域においてデジタル機器がその作業の多くを占めるようになり、製作される補綴装置も十分な精度を確保することができるようになってきている。また様々なマテリアルが加工出来るようになることで治療の選択肢が増え、患者歯科従事者が得られる利点も非常に多い。それらの精度の高さや選択枝の増加は非常に大きなアドバンテージであり、デジタル機器はなくてはならないものになっている。また歯科医院側においても口腔内スキャナーや診断用ソフトなどが多く見られるようになり臨床でも広く活用されている状況である。その一方でデジタル機器の導入には技術習得の為の時間や、機材導入の為の経済的コストが必要とされることから未だ参入障壁が高く、デジタル化が進んでいない一面があるのも事実だと思われる。従来アナログで行えたことがデジタルでも同じように出来るようになるだけでは前述したコストに見合わないと考えられるのもその一因になるのではないだろうか。私にとって CAD ソフトを活用することで得られる最大の利点は、データマッチング(スーパーインポーズ)が可能であることである。複数の異なるデータや資料を同一画面上で重ね合わせることで、従来出来なかった手法を確立することができるようになったと感じている。例えばデータマッチングを活用することにより、治療計画の立案時には情報抽出量の増大や情報の可視化によって確度の高い診断用ワックスアップを行うことが可能であるし、また補綴物製作時には印象回数や作業工程を減少させることで歯科医院や技工所での時間効率を高め、従来では出来なかった補綴物製作方法を生み出すことで患者の負担を減少させることにも繋がるのではと考えている。今回の講演では補綴物製作のみならず、私が臨床士のように CAD ソフトを含めデジタル機器を活用しているのか臨床例を通して紹介したい。

略歴

- 2001 年 新大阪歯科技工士専門学校卒業
- 2003 年 大阪大学歯学部附属病院研修課卒
- 2004 年 (有) ファイン入社
- 2012 年 (有) ファイン デジタル事業部長就任
- 2019 年 (株) ファインロジック代表取締役副社長
- 所属
 - ・日本歯科技工士会会員 (大阪府)
 - ・日本臨床歯科学会大阪支部会員
 - ・日本顎咬合学会認定技工士



デジタルワークフローにおける誤差と要因

Errors and Factors in Digital Workflow

藤松 剛 Takeshi Fujimatsu

株式会社 S.T.F 代表取締役

近年、デジタルツールの進化が急激に進み、我々歯科技工士の日常臨床が大きく変化している。その中で様々な情報が飛び交い各クリニック、各技工所においてどのような設備を導入しどのように活用すべきかが明確になっていないと感じる。

デジタルはツールとして正しく扱えば技工作業が劇的に変わり、技工士が本来時間をかけて作業すべき工程に時間をかけられるという最高の利点がある。従来の技工作業でも精度を追求するため、各工程において注意点やコツを掴む事で様々な問題を解決してきたと思うが、デジタルでも全く同じである。デジタルワークフローにおいても様々な誤差と要因があり、導入してすぐに何でも上手くいくわけではない。失敗には必ず理由が存在し、その失敗はメーカー頼みではなく実際に臨床で使用する臨床家が検証や工夫をする事で改善するしかない。特にインプラント補綴においては誤差の要因が多く注意点も多い。私自身は現状ではフルデジタルは症例により可能で、基本的には従来の技工とデジタル技工の融合がベストと考えている。

デジタルは、あくまでツールとして考え補綴のゴール自体は従来の技工と何も変わらず完成までのプロセスが変化するだけにすぎない。

そこで実際の技工作業におけるデジタルワークフローをベースとして、考えられる誤差とその要因について解説する。

略歴

- 1998年 新大阪歯科技工士専門学校専攻科卒業
- 2003年 STF Dental Service 開業
- 2012年 株式会社 S.T.F Kyoto 設立
- 2020年 株式会社 S.T.F Tokyo 設立
- 2022年 株式会社 S.T.F Digital Transformation Center 設立
- straumann 社 CARES Instructor
- CM 社 Pekkton Instructor
- 3shape 社 LAB Ambassador



デジタル時代の社員教育とモチベーションアップ大作戦

村田 彰弘 Akihiro Murata

歯科技工士 株式会社 LAZARUS 代表

私が開業した2010年以降、業界のデジタル化・働き方改革の定着・コロナの襲来・自身の考え方の変化等々… 本当に様々な変化があり、たった干支が一周する間に一経営者として非常に刺激的な経験を色々させて頂いた。「昔の常識は今の非常識」ということを痛感する日々であり、自身が臨床に携わった時とは全く違う世界になったと言っても過言ではないだろう。

デジタルが歯科技工業界に本格的に組み込まれ出した20年ほど前、「これで自分達の仕事はかなり楽になるのではないか」という期待と「デジタルによって自分達の仕事がなくなるのではないか」という不安によってデジタルが迎えられたように記憶している。

しかしデジタルの波が一段落した現在、「デジタルとの向き合い方」というものはある程度業界として同じ方向を向き出したと感じていると同時に、以前とは社員教育の方法もずいぶん変化してきたと感じる。

そこで今回は、「デジタル時代だからできる事」と「デジタル時代だからこそ忘れてはいけない事」、そして加速しながら変化する時代の歯科技工所経営者として、今の時代の社員教育方法とモチベーションアップ方法を筆者の経験と考えを交えながら供覧したい。

略歴

- 2002 兵庫歯科学院専門学校卒業
- 2003 ~ 2005 伊藤歯科医院 (大阪)
- 2005 ~ 2006 Au Ceram (USA)
- 2006 ~ カツベ歯科クリニック (大阪)
- 2010/5/6 LAZARUS 開業



歯科技工所が提供する診査診断から 最終補綴までの デジタルワークフローとその取り組み

Digital workflow and initiatives provided by dental laboratories from examination diagnosis to final prosthesis

吉澤 琢真 Takuma Yoshizawa

北海道 SJCD 理事 北海道歯科技術専門学校非常勤講師
日本顎咬合学会会員 THE bonds of Hokkaido 執行役

私が初めて CAD/CAM を使用してから 20 年が経ちましたが、歯科におけるデジタル化への歴史を振り返ると、徐々にたくさんの段階を経てきた現在ではデジタル技術を使わない状況がない時代へと歯科技工のプロセスが変わってきました。

2013 年 CAM はアウトソーシングからインハウスへ代わり 2016 年からスキャンニングはデスクトップスキャンから IOS へと移り変わりがあり歯科界に大きな利便性を与えました。

その結果デジタル技術を使い歯科技工の徹底的な効率化と歯科医院への迅速な補綴物の提供が可能となり、治療計画や患者様への分かりやすい説明が行えるコンサルテーションツールを歯科医院へ提供し、そこから補綴治療へと導くことが可能となりました。

今回様々なソフトの中から症例ごとにアイデアを出しあい、各ソフトをリンクさせ効率よく成功に導いたデジタルワークフローを紹介する。



バーチャル咬合器を活用するための 3つの要点

高瀬 直 Naoki Takase

Dental Labor GmbH Gross

近年、デジタルデンティストリーが主流化し、IOS (Intraoral Scanners) の普及拡大に伴う歯科技工作業のモデルレスも、最早稀有たるものではなくなった。モデルレスによる補綴装置製作では、CAD (Computer-Aided Design) による完全なデザイン・設計が必須である。とりわけ動的咬合状態の再現においては、バーチャル咬合器の活用が不可欠であろう。

現代のバーチャル咬合器の多くは、あくまで従来咬合器を画面に映し出しただけのものである。つまり、咬合器の基本的な理論を習得していれば、その取り扱いは難しくはないと考えられる。ただし、バーチャル咬合器は通常的使用方法では特有の動作を起こし、期待通りの運動再現が難しい問題を内包している。このことから、バーチャル咬合器は未だ臨床の現場で十分に活用されていないとの情報も目にする。

しかし、これらの問題は僅かな工夫で解決が可能である。したがって、バーチャル咬合器は現状においても、補綴装置を製作する上で十分に効果的なツールであると認識している。

そこで本講演では 3Shape Dental designer のバーチャル咬合器の効果的な活用方法を主題とし、バーチャル咬合器運用の基礎、および IOS におけるバイトエラーの原因と対策について詳説したい。

略歴 1996年 北海道歯科技術専門学校 卒業
1997年 北海道歯科技術専門学校 研究科 終了
2008年 (株)札幌メディカルラボ 退社
2008年 TAC Dent field 開業
2012年 (株)Dent field CAD/CAM センター 開設
2015年 (株)TAC Dent Field 開設

略歴 2005 浦和学院高等学校美術科 卒業
2008 日本大学歯学部附属歯科技工専門学校 卒業
2024 現在 Dental Labor GmbH Gross 勤務 / 主任



音波式3次元運動解析システム (zebiris WINJAW System)
超音波式3次元運動解析システム (zebiris WINJAW System)
を活用した咬合再構成について

諸限 正和 Masakazu Morokuma
諸隈歯科医院院長

日々の臨床において、崩壊した口腔内を改善したいと来院される患者の治療に取り組むには咬合再構成と再現性のある下顎位獲得が重要だが、その決定方法は様々である。

本講演では「超音波式3次元運動解析システム (zebiris WINJAW System: GmbH)」を活用し顎運動の可視化・数値化から得た客観的データを活用した咬合再構成の標準化方法について解説する。

咬合再構成とは、蝶番軸に基づいて咬合位を定め臼歯離開咬合か犬歯誘導咬合により咬合再構築し顎口腔系の形態・機能・審美性を回復する治療方法である。咬合再構成における臨床は、咬頭嵌合位と中心位の一致が解決の糸口となるがアナログでの診査診断は容易ではない。

近年、超音波式3次元運動解析システムと歯科用CADソフトウェアの連携が進み顎関節を含めた下顎運動の診査診断がより明確となってきた。その結果、生理的な位置への下顎頭誘導、パラファンクションの排除から機能的に安定した下顎運動への改変、それに伴うプロビジョナルレストレーションの形態決定と治療期間短縮等に取り組めるようになってきている。最も有益な点は、デジタルデータを活用した咬合再構成によって客観的に顎口腔系の問題が捉えやすく、治療介入のハードルが以前より低くなってきた点である。

今回、超音波式3次元運動解析システムの具体的な使用手順と下顎運動の再現から歯の接触の可視化、アナログ咬合器への付着、歯科技工士との連携について解説しながら、メリットと今後の課題について報告する。



デジタルと業務範囲
Digital Dentistry and Legal Scope of Work

小畑 真 Makoto Obata
弁護士法人小畑法律事務所 代表弁護士・北海道大学客員教授・歯科医師

歯科医療においては、「歯科医師でなければ、歯科医業をなしてはならない。」(歯科医師法第17条)、「歯科衛生士でなければ、第2条第1項に規定する業をしてはならない。」(歯科衛生士法第13条本文)、「歯科医師又は歯科技工士でなければ、業として歯科技工を行ってはならない。」(歯科技工士法第17条第1項)など、国家資格有資格者ごとに、法律上、業務範囲が定められています。これらの業務を無資格者が行くと、罰則規定が設けられておりますので、逮捕や書類送検などでニュースになり、刑事罰を受けるとともに、一定期間の業務停止を受ける可能性があります。そのため、業務範囲に関する正しい理解は必須ですが、「〇〇はいいけど、△△はダメに決まっている」とか、「□□ってグレーだからやってもいいんだよね」などと、都市伝説的な内容も含めて、間違った解釈で運用していたり、間違っていることを知りながら、慣習的に行っている医院も少なくありません。

もちろん、時代の変化に既存の法律が追いつかない状況になることもあります。たとえば、昨今、CAD/CAMをはじめとした歯科医療におけるデジタル化も浸透してきていますが、歯科医療におけるデジタル化は、法律を制定・施行した時点は想定していなかったわけです。そのため、歯科の世界に限った話ではありませんが、時代の変化に応じて、法改正、法解釈や法運営の変更などの検討は必要です。ただし、法改正や法解釈の変更が行われていないのに、「法律が今の現状と合わないから、古い法律や法解釈を破ってもいい」という理由にはなりませんので、少なくとも現時点での法律や法解釈を知り、新しい技術やシステムについても法の趣旨から現場で正しく運用することは必須です。

そこで今回は、現状の各国家資格有資格者の正しい業務範囲について解説した上で、新しい技術やシステムについての、誰がどのような業務までできるのかということについてお話いたします。

- 略歴
- 2003年4月 日本大学歯学部入学
 - 2008年3月 日本大学歯学部卒業
 - 2008年4月 日本大学歯学部 研修診療部 所属
 - 2009年4月 日本大学大学院 歯学研究科 歯学専攻 局部床義歯学 入学
 - 2013年3月 日本大学大学院 歯学研究科 歯学専攻 局部床義歯学 卒業
 - 2013年4月 日本大学歯学部附属歯科病院 局部床義歯学講座 専修医
諸隈歯科医院勤務
 - 2014年4月 日本大学歯学部附属歯科病院 局部床義歯学講座 非常勤医
諸隈歯科医院 副院長
 - 2017年5月 諸隈歯科医院 院長就任

- 略歴
- 1998年北海道大学歯学部卒業。同年医療法人仁友会日之出歯科真駒内診療所勤務。
 - 臨床を続けながら、2007年北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了。
 - 2010年北海道大学法科大学院修了、2011年司法試験合格。
 - 2014年小畑法律事務所開所。2016年弁護士法人小畑法律事務所設立。
 - 現在、東京、札幌、横浜にオフィスを構え、医療業界に特化した弁護士として活動。
 - 講演やセミナー、執筆活動、学生教育、相談業務、法律顧問、医療裁判も多数対応。



アライナー矯正治療の再定義

尾島 賢治 Kenji Ojima

医療法人スマイルイノベーション 理事長
 (銀座さくら矯正歯科, スマイルイノベーション矯正歯科・新宿, 本郷さくら矯正歯科)
 日本アライナー矯正歯科研究会 (JAAO) 設立 大会長
 トリノ大学 矯正歯科 Adjunct Professor
 インビザライン 元クリニカルスピーカー / ファカルティ 東京 SJCD 会員

1926年にリメインスナイダーがアライナー矯正を提唱してから約100年が経ち、アラインテクノロジー社がインビザラインでCAD/CAMを導入したことでアライナー矯正はこの25年で世界的に多く臨床に応用されるようになりました。

最近では、CAD、アライナー矯正治療のシミュレーションソフト、3Dプリンターの高性能化、新しいアライナー素材の出現が、デジタルによるインハウスアライナーシステムのクオリティを高めるきっかけになりました。

企業に製作依頼せず自分のクリニックで内製化するという手順が変わっただけではなく、アライナー矯正の概念が大きく変わること、治療のワークフロー、治療計画の立て方、治療結果も大きく変わりました。従来の企業に依頼するアライナー矯正での常識がここで大きく変わろうとしています。

今回は、アライナー矯正治療の概念を再構築すべく講演をさせていただきます。



インプラント治療におけるデジタルワークフロー

多保 学 Manabu Tabo

日本歯科大学付属病院准教授 日本歯周病学会 専門医・指導医
 アメリカインプラント学会 専門医 日本口腔インプラント学会 専門医 日本口腔外科学会 認定医

昨今のインプラント治療にも日常的にデジタル技術が浸透し、パノラマ写真からCBCTによる診査診断に変わり、インプラントシュミレーションソフトによるサージカルガイドの制作や埋入時のダイナミックナビゲーションシステムなど、現在のインプラント治療は診査診断の段階から手術の過程でもデジタル技術を用いるのが当たり前になっている。しかし、オッセオインテグレーション獲得後の補綴物製作にあたり、ラボへの依頼方法はシリコンによる印象採得を行っていた。そのため模型製作までの過程は、石膏を使う従来通りの方法をとっていた。

近年ではIOSへの関心が高まり、高額なIOSから低価格帯のIOSまで販売されるようになった事も含めIOSは急速な広がりを見せている。技術促進により、天然歯の補綴治療への選択の幅も広がり、インプラント補綴にも同様にIOSを使用した報告も増えてきている。

クリニックにとってインプラントを含む補綴治療にIOSの用いるメリットの一つはチェアサイドにてその場でデータの確認ができるようになったことである。精度の良いシリコン印象を採得するには術者の技術的な熟練度が必要であり、後日模型が出来てから初めてわかるエラーも見られた。

それに比べIOSは、データ採得時のスキャンエラーや対合歯とのクリアランスの確認などのチェックをクリニックで行うことができる。患者がいる状況下でもラボとデータの確認や相談ができることで、再来院なども少なくすることが可能である。

なお、インプラントでは精度の高いスキャンデータが必要であり、クリニックとラボの双方が必要なポイントを共有するためチェック項目を準備することが必要である。チェック項目をお互いに理解することで、エラーのないデジタルデータを共有できるのではないだろうか。

ラボにとってはインプレッションコーピングのフィクスチャーとの不適合やシリコン印象内での揺れ、残存歯の変形などの印象エラーによる再印象がなくなり、補綴物製作をスムーズに進めることができる。

しかし、CADソフトでデザインしたモデリングデータを再現性高く製作するためには、ISOのスキャン精度に加え、デザインしたデータを加工するCAMソフト、実際に加工する加工機の精度も重要になり、これらの仕組みを理解することで安定した精度の補綴物を製作できるのではないだろうか。本講演ではISOを用いたインプラント治療におけるラボとのコミュニケーションや、実際の診療の流れ、ラボサイドからの注意事項などを歯科医師サイドとラボサイドから説明する。

略歴	年	内容
	2004年	日本歯科大学生命歯学部卒業
	2004年	日本歯科大学附属病院臨床研修医
	2006年~2009年	日本歯科大学附属病院歯周病科
	2006年~2010年	町田市民病院 歯科・口腔外科
	2010年~2013年	米国ロマリダ大学インプラント科大学院留学
	2013年	千葉県浦安市栗林歯科医院勤務
	2015年	たば歯科医院 開業
	2020年	たば歯科医院西口開業
	2022年	さいたま・こども矯正歯科開業



ガイドッドサージェリーによるフルアーチインプラント補綴からIODまで

From full-arch implant prosthodontics to implant overdentures with guided surgery

田中 譲治 Jyoji Tanaka

一般社団法人 日本インプラント臨床研究会 施設長
日本大学松戸歯学部 臨床教授

デジタルデンティストリーの進歩は目覚ましく、特にCAD/CAM技術の発展は素晴らしく、精度を要求されるフルアーチインプラント補綴でさえ簡単にパッシブフィットが得られるようになってきている。インプラント体は規格化されているためデジタルの進歩に好都合で飛躍的に向上し、加えて、優れた口腔内スキャナー（以下IOS）の出現でインプラント治療は大きく変革を起しており、設計から最終補綴までフルデジタルワークフローが構築されつつある。IOSを用いることで従来の印象材による印象と違い、抜けてしまいそうな天然歯であっても不快感が少なくデータを取得でき、CTそしてフェイススキャンをも用いてスーパーインポーズすることで、バーチャル上で、あたかも本人がいるような状況で最終補綴を見越した設計が可能となっている。しかも、ガイドッドサージェリーにより、その設計通りにインプラント埋入ができ、ひどかった口腔内をその日のうちに、義歯にすることもなくプロビジョナルレストレーションを装着することが可能となっている。これらのワークフローの実際を示してみたい。

一方、超高齢社会を迎え、少数のインプラントで高い治療効果のあるインプラントオーバーデンチャー（以下IOD）が注目されている。IODについてもデジタル化が急速に進んでおり、当医院においても自費の義歯においては、ほぼ全てIOS等のデジタル技術を用いており、その義歯製作もほとんどを3Dプリンターにて製作し良好な結果を得ている。顎堤だけでなく裏打ちされた顎骨をも考慮した排列やデータ保存による生涯にわたる臨床応用の可能性を秘めている。そこで、当医でルーティーンになりつつある「IOSデンチャーコピー法（既存義歯を口腔外で全周スキャンする方法）」等を用いたIOD製作法を紹介する。デジタルデンティストリーの進歩によるインプラント治療のさらなる発展を期待している。



習慣は第二の天性なり

北道 敏行 Toshiyuki Kitamichi

一般社団法人 日本臨床歯科CAD/CAM学会 会長

天性のもの。何事においても得意不得意は存在します。それは我々歯科医療に従事する者に当てはまります。各々に得意な分野、不得意な分野が存在します。『デジタルオタク』と言われるコンピューターが得意な者もいれば『デジタル音痴』と言われる者もいます。もともと天性とは、持って生まれたものなので努力しても変えることができません。でも、小さな「習慣」を毎日毎日続けていればどうでしょうか？繰り返しの行動は自分の実となり「第二の天性」となるんです。才能がないから…と悲観的になる必要はありません。

さて、『デジタル機器IOS』ですが我々歯科医院において日常業務に溶け込みつつあります。しかし普及率は総歯科医院数2割程度でしかありません。またほとんど全ての歯科医師がIOSを印象採得装置としてしか使用していないのも現状です。デジタル機器であるIOSは情報の保存と共有に有効です。患者の口腔内を3D表示することにより口腔衛生管理にも使えます。情報比較においても従来の口腔内写真と比較して得られる情報量は圧倒的に多いのも特徴です。これらの情報を患者教育、新人教育に利用することに大きな意味があると思われます。決してIOSを歯冠修復や歯科技工所とのやりとりを使用することを否定するわけではございません。しかし、高速通信技術の目覚ましい進歩により5G通信や6G通信が当たり前となっているだろう数年後には当たり前の働き方になっていると思われます。デジタル技術を駆使することは決して難しいことではありません。我々は臨床に携わる日本臨床歯科CAD/CAM学会として、全てのスタッフがIOSデーターを当たり前使えるように今回の講演で背中を押す役割を果たせたらと考えます。

- 略歴
- 1986年 日本大学松戸歯学部卒業
 - 1989年 千葉県柏市にて田中歯科医院開業
 - 1995年 MACS研究会設立 現在主宰を務める
 - 2001年 日本大学松戸歯学部 解剖学II講座にて学位取得
 - 2008年 日本大学松戸歯学部 臨床教授 現在に至る
 - 2014年 一般社団法人 日本インプラント臨床研究会 施設長
 - 【現在】 公益社団法人 日本口腔インプラント学会 専門医・指導医・代議員 / アジア口腔インプラント学会 (AOIA) 理事 / 日本歯科審美学会 理事 / 日本磁気歯科学会 理事 / 日本アンチエイジング歯科学会 理事 / ITIフェロー・ITI SC 関東2支部長 / 北原学院歯科衛生専門学校 非常勤講師 / 柏・東大スタディー協力医

デジタル義歯の現状と課題

株式会社モリタ

山崎 史晃 Fumiaki Yamazaki

株式会社モリタ

近年、若手歯科技工士の減少が顕著であり、技工士不足が深刻化しています。特に、有床義歯の製作は技工士にとって採算が合わない領域となっており、その結果、義歯製作に従事する人材も減少しています。この問題に取り組むためには、作業効率の向上と労働環境の改善が不可欠です。その鍵となるのがデジタル化です。

当院では2018年に総義歯を造形できるミリングマシンを導入し、2020年には3Dプリンターを追加導入しました。これにより、高精度なデジタル義歯を短時間で安定して製作することが可能になりました。特に導入したAccuprint 4.0 pro (モリタ)は、短時間で高精度の3Dプリントを実現し、24時間以内に安価で高品質な義歯を提供することで患者満足度が大幅に向上しました。

デジタル義歯導入によって、印象体を直接スキャンすることで石膏模型が不要となり製作時間が1/6に短縮され、さらに3Dプリントによる試適義歯を患者が持ち帰って実際に使用できることを確認した上で最終義歯を製作できるため、患者との信頼関係も向上しました。また、高精度な義歯により調整回数が大幅に減少するという利点もあります。

今回の講演では、これまでのデジタル義歯導入の経験を共有し、直面した問題やその解決策について詳しく紹介します。デジタル技術を活用した新しい義歯製作の可能性にご興味のある方にとって、臨床がより楽しくなる一助になれば幸いです。

- 略歴
- 1995年 福岡県立九州歯科大学卒
 - 2002年 やまさき歯科医院開院 (富山県)
 - 2017年 大阪大学大学院卒・歯学博士
 - 2019年 Suction Denture 国際チーフインストラクター
 - 2021年 ISIS (金沢医療技術専門学校) 技工士科非常勤講師
 - 2024年 有床義歯学会会長
マレーシアマラヤ大学臨床エキスパート

日本の歯科医療は最盛期へ。DXにより進む歯科エコシステムの進化とは？

WHITE CROSS 株式会社

赤司 征大 Masahiro Akashi

WHITE CROSS 株式会社 代表取締役社長
歯科医師・中小企業診断士・UCLA MBA

過去数十年間と、次の5年・10年で実現化されていく歯科医療の姿は大きく異なります。一方で、2040年に向けてこれまで歯科医療のコアバリューであり続けてきたdrill, fillへのニーズや価値は、益々高まっています。そこにDXが重なり、日本の歯科医療はまさに最盛期を迎えようとしています。それは令和6年度診療報酬改定を通じて、歯科医療の社会的位置付けが大きく変化しようしていることから読み取れます。

講演では、世界と日本の歯科医療情報を収集・発信し、日本社会と歯科医療の未来図を分析し続けてきた立ち位置から見える「歯科医療・歯科医院・歯科技工所の現在地と5年後・10年後の姿」についてお話させていただきます。また、口腔内スキャナを用いたCAD/CAMインレーの保険収載を通じて、歯科医院には厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」への準拠が一層求められるようになりました。それは、歯科医院のDX化がパートナーである歯科技工所の医療情報取り扱い責任にも影響を与えるようになり、エコシステムそのものが進化しようしていることを示しています。そこにおいて、政府や関連各所に調査・確認をしてきた情報・注意点を話させていただきます。

- 略歴
- 2008年 東北大学歯学部卒
 - 2015年 UCLA Anderson School of Management 卒
 - 2015年 WHITE CROSS 株式会社を共同創業
東北大学歯学部/大阪歯科大学大学院/松本歯科大学/日本大学松戸歯学部 非常勤講師
神奈川歯科大学 医療経営学招聘講師
東京都歯科医師連盟会員
国際歯科学士会フェロー

Trios meets Primeがもたらす In-house manufactur

デンツプライシロナ株式会社

北道 敏行 Toshiyuki Kitamichi

きたみち歯科医院

ついに TRIOS および Dentsply Sirona の CAD/CAM デバイスとのワークフロー統合により、歯科医院内での In-House Solution がさらに拡張された。これにより 3Shape TRIOS スキャナを、修復および 3D プリントのための包括的な院内製造ワークフローにシームレスに接続することが可能になった。この TRIOS の新しい歯科医院での運用スタイルは、DS Core と 3Shape Unite によって可能となる。デジタル歯科医療への合理化されたアプローチを提供し、Primemill または Primeprint ソリューションを組み込むことで TRIOS を使用した歯科臨床をさらに快適にし、患者の歯科診療に対する価値観と利便性を大きく向上させることが可能であると考え。結果として歯科医院内での自費診療率を向上させる機会をも獲得できる。すなわち 3Shape TRIOS ユーザーは、Primemill と Primeprint ソリューションを使用して One-visit Treatment をシームレスに提供し、患者のエクスペリエンスを向上させることが可能となる。また使用する inLab ソフトウェアは、バイオジェネリック修復提案の設計を可能にし、Primemill および SpeedFire との同期が可能である。TRIOS によるスキャンの際に 3Shape Unite から送信先を DS Core に設定し、患者記録にリモートアクセスするだけの非常にシンプルな工程である。この進化はチームのモチベーションを高めるだけでなく、院内完結型システムとして業務効率を最適化する。またアウトソーシングシステムとして使用する場合のシステム効率化も大きく変化したことも付け加えておく。TRIOS ユーザーの先生方にも In-House Solution を活用し、新しい院内ワークフローを確立されてはどうか。

聞いて得する！ 予防歯科での口腔内スキャナーの活用 ～ SheM システムと院内 DX の活用実践～

株式会社 4 DX

杉田 大 Hiroshi Sugita

ウイステリアデンタルケア院長 保育士 歯想会 会長 食育インストラクター キッズコーチ

地域に根付いた予防歯科医院として成功するためには、いくつかの重要な要素があります。例えば、歯科衛生士が主役となり、初めての来院時から患者をファンに変え、他の医院とは異なる明確な特徴を持つことが大切です。そのためには、効果的な医院システムの構築とその周知が欠かせません。

当院では、開業当初から最新の口腔内スキャナーである Shining3D 社の「Aolalscan3」を導入し、それを最大限に活用した予防歯科「SheM システム（シームシステム）」を考案しました。この SheM システムは、予防歯科としてのブランディングに非常に効果的で、患者さんのみならずスタッフの定着にも大きな影響を与えています。

さらに、院内では歯科衛生士が主体的かつ能動的に動くことで、ドクターは保険治療に十分な時間をかけ、ストレスのない診療を行うことができています。

今回は、このシステムの内容と、それをサポートするためにお金を極力かけず、Google の基本サービスを活用して自作した院内 DX の導入方法についてご紹介いたします。

略歴 2013年 東京歯科大学卒業
2017年 大月デンタルケア 勤務
2018年 株 Doctorbook マネージャー Doctorbook academy 責任者
2022年 杉田歯科医院承継 ウイステリアデンタルケア開業

ランチョンセミナーのご案内

	日時		会場	企業名
ランチョン セミナー 1	12/7 [土]	12:00~13:00	301	 インビザライン・ジャパン株式会社
ランチョン セミナー 2	12/7 [土]	12:00~13:00	303	 Ivoclar Vivadent 株式会社
ランチョン セミナー 3	12/7 [土]	12:00~13:00	304	 株式会社三和デンタル
ランチョン セミナー 4	12/8 [日]	12:00~12:45	302	 デンツプライシロナ株式会社
ランチョン セミナー 5	12/8 [日]	12:00~12:45	313 + 314	 株式会社ヨシダ
ランチョン セミナー 6	12/8 [日]	12:00~12:45	304	<small>おさえあって、すばらしい。</small>  株式会社 soeasy
ランチョン セミナー 7	12/7 [土]	12:00~13:00	311 + 312	 株式会社 SCO グループ
ランチョン セミナー 8	12/8 [日]	12:00~12:45	301	 エミウム株式会社

認定審査会開催のお知らせ

本学会は CAD/CAM 治療の研鑽を通じて歯科臨床の向上に努め、もって国民の健康増進に寄与することを目的としております。一層の専門的知識と技術を有する歯科医師を育成し、地域医療に貢献することを旨とする制度として、『一般社団法人日本臨床歯科 CAD/CAM 学会認定医制度』を設立しております。

本年度は第3回目の認定審査会開催となり、本学会の第10回学術大会(神奈川県開催)に合わせて下記の要領にて認定審査会を開催致します。

記

日時 令和6年12月7日(土) 12時30分より

場所 パシフィコ横浜 会議センター 315

なお、暫定期間中の認定医申請に必要な書類や単位数などの詳細につきましては、学会ホームページをご覧ください。会員の皆様におかれましては、本学会の認定医制度にご理解をいただき、今後ともご支援、ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

認定担当理事 高松 雄一郎

歯科衛生士認定講座について

12/8 [日] 9:00~10:30 | 会場: 311+312

本学会は、CAD/CAM 等のデジタルに関わる広い学識と高度な専門的技術を有する歯科衛生士の養成を図り、デジタルライゼーションそしてその先の DX への発展と向上並びに国民の福祉に貢献することを目的として、学会公認認定歯科衛生士の資格を設けました。この講座受講によって必要単位のうちの3単位が付与されます。終了後に会員ページの QR コードにて受講証明を行います。表示できますようご準備をお願い致します。

日時 12月8日(日) 9:00~10:30

場所 311, 312 号室

* 講座開始 15 分以降は入場できませんのでご注意ください



歯科医療従事者とIT企業でテクノロジーを開発し、新しい時代をつくる。

DELTA

新たな10年を支える製品・サービスをブースで詳しくご案内します



KAGURA

より小さく、より軽く、より速い
口腔内スキャナー

光学印象 保険適用機種

全国で導入拡大中
歯科デジタル技工連携システム

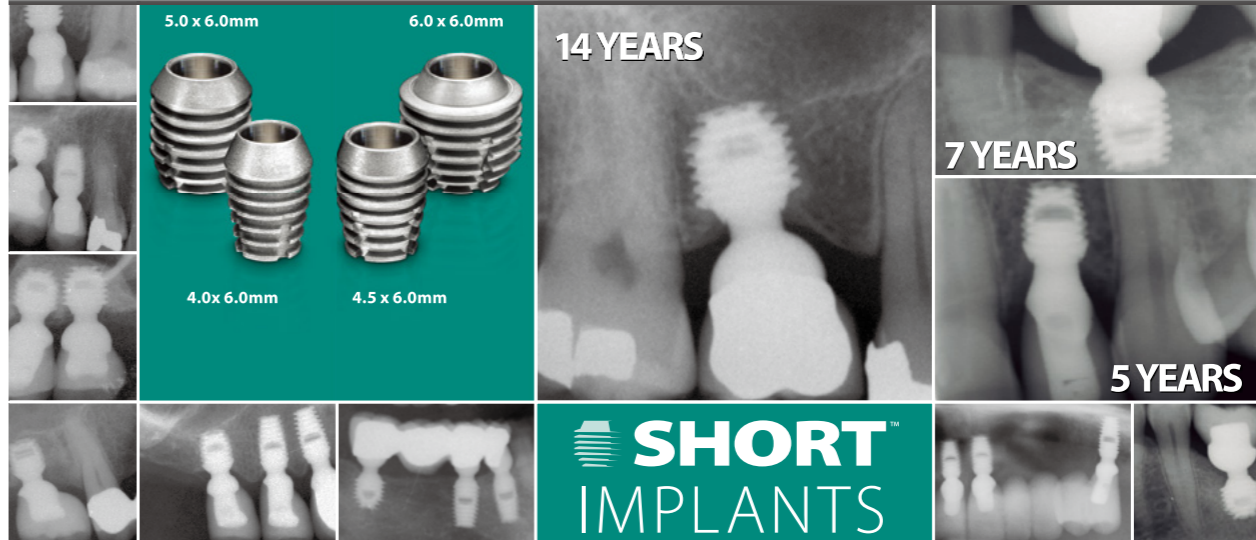


DELTA ORDER

歯科技工士
連携加算
対応




THE BICON SYSTEM.



5.0 x 6.0mm 6.0 x 6.0mm 14 YEARS

4.0 x 6.0mm 4.5 x 6.0mm 7 YEARS

5 YEARS

SHORT IMPLANTS



●症例・セミナー情報・お問合せは弊社ホームページより→



バイコンジャパン株式会社

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-4-5 茅場町2丁目ビル2F TEL: 0120-8150-62 FAX: 0120-418-117

Since 1985 » Simple. Predictable. Profitable.

外国製造医療用具承認番号 208008ZG00044000, 208008ZG00045000, 208008ZG00046000



大好評書籍のご案内

展示ブースにてお待ちしております

The Age of Digital Dentures

想像以上に
パーフェクト

デジタルデンチャーの時代がやってきた

山崎史晃

導入から案内療法、装用治療、修復治療のすべて

マイクロスコープパーフェクトテクニック

MICROSCOPE PERFECT TECHNIQUE

日本 貞隆

無理なくできる

骨造成導入マニュアル

木村 英隆

無理なくできる

根面被覆導入マニュアル

日本 貞隆

無理なくできる

再生療法導入マニュアル

日本 貞隆



ポータルサイトを通して生活者に有益な歯科医療情報を



国内初の歯科インプラント治療
(歯科口腔外科の治療)の総合専門サイト

インプラントネット

国内初の矯正歯科治療の総合専門サイト

矯正歯科ネット

株式会社メディカルネットは、日本臨床歯科 CAD/CAM 学会ゴールドメンバー協賛企業です。
医院様ホームページ無料診断をはじめ、Web 周りのお悩み・対策についてお役に立てます。

東証グロース上場

お電話・メールでもお気軽にご相談ください

株式会社 **メディカルネット**

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1丁目34番14号 宝ビル3F

☎ 03-5790-5261

☎ 06-7222-8043

✉ s-sales@medical-net.com

受付時間 平日 10:00~19:00 [東京本社]

受付時間 平日 10:00~19:00 [大阪支社]



DETANL SOLUTION

ゼロメディカル デンタルソリューションでは
 歯科医院様の診療スタイルや治療方針を知り、WEBを使った総合プロデュースをご提供しております。

◆Tokyo

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-9
 住友新虎ノ門ビル8F
 03-5725-8100 / 03-5725-8101

◆Osaka

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田
 2-5-8 千代田ビル西別館6F
 06-7653-8861 / 06-7655-8962

◆Fukuoka

〒812-0011 福岡県福岡市博多区博
 多駅前2-5-8 ベルコムズ博多3F
 092-477-8920 / 092-477-8921

◆Nagoya

〒451-6040 愛知県名古屋市中区牛
 島町6-1 名古屋ルーセントタワー40F

◆Fukushima

〒960-8141 福島県福島市渡利字中
 江町24-2 西201

 ZERO MEDICAL

YOSHIDA

MEDIT i600

2024年1月21日より価格改定しました
 標準価格200万円▶158万円(税別)

✓ ケーブル1本での運用可能

タイプCポートにケーブル1本
 のみで接続でき、PCまわりが
 すっきりします。



✓ 軽量&コンパクト

245gと非常に軽量で、スリムな設計のため、
 持ちやすいです。

✓ 180°回転チップ

上向きに装着できるため、
 上顎のスキャン時に持ちや
 すくなります。



シンプルで簡単操作

製品の
 WEBサイト
 はこちら



多機能搭載のコストパフォーマンスに
 優れた口腔内スキャナーです。
 歯科技工所、教育機関でもお使いいただけます。
 デジタル歯科を始めたい方におすすめです。

一般的名称：デジタル印象採得装置 歯科技工室型設置型コンピュータ支援設計・製造ユニット
 販売名：i600&i700 オーラルスキャナ 承認番号：30300BZ100031000 (管理 特管)
 製造販売元：株式会社ダブリューエスエム 販売元：株式会社 **ヨシダ** 東京都台東区上野 7-6-9 TEL.0800-170-1170 (CAD/CAM のお問い合わせ)

4DX
for the new stage

“ 予防歯科 × DX ”

～ 新たな領域での I O S 活用提案 ～



株式会社 4DX

新規開業・移転・入替からまるまる
医院建築・改装も含めて **Cjメディカル** でご用意!



<p>Webサイト ラインナップ</p> <p>各サイトでCj商品を詳しく紹介しています</p>	<p>Cjソリューション</p> <p>診療から技工まで口腔内スキャナ、CAD/CAM、3Dプリンタも掲載</p> <p>Ciデジタルソリューション</p>	<p>Cjデンタルタウン</p> <p>超お得に開業・入替が準備できる専門サイト!</p> <p>Ciデンタルタウン</p>	<p>Cjプロダクツ</p> <p>ユニット、CT、マイクロスコープ、小型機械までご提案</p> <p>Ciプロダクツ</p>
	<p>Cjインプラント&オルソ</p> <p>インプラント、ガイド、矯正商品、ソフトウェアまでご提案</p> <p>Ciインプラント&オルソ</p>	<p>Cj PRODUCTS REVIEW ON WEB</p> <p>Ciの商品や開業された医院様のレビューが満載</p> <p>Ciプロダクツレビュー</p>	<p>Cjプロダクツサポート</p> <p>各製品のFAQ、レクチャー動画、問合せフォームでお困りごとを解決</p> <p>Ciプロダクツサポート</p>

北海道営業所 | 仙台営業所 | 東京営業所 | 北陸営業所 | 長野出張所 | 名古屋営業所 | 大阪営業所 | 広島営業所 | 福岡営業所 | 鹿児島出張所 | 岐阜羽島リアルクリニックSR

OneDay

診療に変革をもたらす
セラミックブロック

initial

initial™ LiSi Block

熱処理不要

高強度・高耐久性

研磨仕上げ可能

写真提供: 小林祐二先生
(北海道上川郡美瑛町 Youすまいる歯科医院 院長)

歯科切削加工用セラミックス
イニシャル LiSi(リジ)ブロック

歯科切削加工用セラミックス ジーシー イニシャル LiSiブロック
管理医療機器 227AKBZX00074000

*掲載の情報は2024年6月現在のものです。*色調は印刷のため、現品と若干異なることがあります。
*製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますので、予めご了承ください。
*会社名、製品名称等は各社の商標または登録商標です。

発売元 **株式会社 ジーシー** / 製造販売元 **株式会社 ジーシー**
東京都文京区本郷3丁目2番14号 東京都板橋区蓮沼町76番1号

GuideDent

一般社団法人
日本臨床歯科CAD/CAM学会
会員様向け

ガイドデント保証システム
インプラント10年保証
審美歯科治療5年保証

ガイドデント保証
6つの強み

- 第三者機関がバックアップ
- 他医院との差別化
- 弊社HPによる医院の紹介
- 患者さまへのアフターフォロー
- 再治療費用負担リスクの軽減
- 患者さまのリコール対策

これからインプラントオベを行う先生から
医院承継を視野に入れている先生まで
幅広くご利用いただいております。

お電話・メールでのお問い合わせは
03-6276-8360 (平日 10:00~18:00)
info@guidedent.co.jp

インプラント治療の
安心と安全をカタチに

<p>インプラント治療</p> <ul style="list-style-type: none"> フルカバー保証 上部構造のみ保証 <p>19,470円(税込)~/本 16,610円(税込)~/本</p>	<p>審美治療治療</p> <ul style="list-style-type: none"> 審美(クラウン)5年保証 *自費治療のみ <p>4,070円(税込)~/本</p>
--	--

一般社団法人日本臨床歯科CAD/CAM学会
会員向けキャンペーン

<p>特典 01</p> <p>ガイドデント保証初回登録料 165,000円(税込) →55,000円(税込) 67%OFF</p>	<p>特典 02</p> <p>CCC(CEREC CLINICAL COURSE) 30,000円分チケット進呈</p>
--	---

東証グロース上場 株式会社メディカルネットワーク
保証会社 **株式会社ガイドデント**
東京都渋谷区笹塚一丁目54番7号 KSビルディング4階



- 電子歯科技工指示書
- IOS API連携
- データ一元管理
- ラボ間取引
- 受注管理
- 帳票管理
- 入金管理
- 工程管理
- 在庫管理

企業の成長に合わせて必要なソフトから導入
歯科技工業務の生産性を高める

歯科技工基幹業務クラウド

エミウム株式会社は「東京科学大学認定ベンチャー（第11号称号）」です
最先端のクラウド技術で、働きやすい環境づくりと事業成長を支援します



歯科医院様
月額0円*~
ご利用可能

- 歯科技工士法準拠
- ISMS対応*
- 高セキュリティ

*当法人の月額費用はわかりません。歯科技工所様は月額料金（税別）でご利用いただけます。詳細な料金プランはお問い合わせください。
エミウムクラウド技術は高度信頼に基づく情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）認定を取得しています

emium クラウド技工

エミウム株式会社
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1-19-723

☎ 03-6772-8539

平日 9:00~18:00 (押社の定める特別休業日は除く、土日休)

✉ cloud-support@emium.co.jp

🌐 https://dt-lp.emium.co.jp



歯科パノラマX線画像解析AI

PanoSCOPE

パノスコープ

AI(人工知能)解析により 顎骨脆弱度評価を支援

簡単な操作で歯科パノラマX線画像を自動解析

「パノラマX線画像による骨粗鬆症スクリーニングの臨床ガイドライン」に準じ、
左右オトガイ孔下付近の下顎骨下縁皮質骨の厚さ(※1 MCW)の計測と
下顎皮質骨形態指標(※2 MCI) 分類により、顎骨脆弱度評価を支援します。

※1 MCW: Mandibular Cortical Width ※2 MCI: Mandibular Cortical Index

歯科パノラマX線画像に「下顎皮質骨解析処理」を含む画像処理を施し、歯科医師による顎骨脆弱度の評価を行うための参考情報を提示することを目的としており、本プログラムによる検出結果のみで確定診断を行うことを目的としておりません。



製品情報	一般的名称	歯科用骨形態評価プログラム
	販売名	PanoSCOPE (パノスコープ)
	医療機器製造販売承認番号	30600BZX00098000



メディア株式会社
茨城営業所

〒310-0021 茨城県水戸市南町3-4-14 明治安田生命水戸南町ビル13F
Tel: 029-302-6801 (代) Fax: 029-297-5610



Ray

3D Facial Scanner.
Face Driven Solution opens the door to infinite possibilities



RAYFace

3D Facial Scanner

ワンショット

撮影時間たったの0.5秒

6つのカメラ搭載

矯正治療、審美補綴、インプラント治療、小児治療、
義歯治療など様々な歯科治療へ活用可能

AIテクノロジー搭載

Facial データに IOS、CT データを自動マッチング

簡単にデンタルアバター（仮想患者）を構築

独自のクラウドシステム RAYteams を活用したデータ連携

RAYFusion (Option)

CT の DICOM データを STL 化 (オートセグメンテーション)

上顎、下顎、サイナス、気道、下顎管、歯牙歯根、各データを詳細に分類



RAYPreMiere

One Scan, All the Detail
RAYSCAN Cephalometric

パノラマ

独自の AMF 技術によりノイズの少ない高画質を抽出

7段階表現と10種類のエッジ加工のカスタマイズ可能

CT

最大撮影範囲 18x16 / Endo モード 4x3 搭載

広範囲から詳細でかつ高画質な撮影が可能

インプラントシミュレーションソフト、気道解析ソフト通常搭載

セファロ

ワンショットセファロ：撮影時間 0.3 秒、FPD により高画質な画像を取得可能

スキャンセファロ：撮影時間 4~18 秒、診査診断に適した高画質な画像を抽出



詳しくは
こちらから

Face-Driven Digital Dentistry

イベント案内

2025



CAD/CAM Clinical Course

✓ Basic Course

2.23-24 関西支部主催 @きたみち歯科医院 (姫路)

9.14-15 関東甲信越支部主催 @ヨシダ本社 (上野)

✓ Advance Course

3.29-30 CEREC Solutionコース@ デンツプライシロナ銀座

4.20 VITAコース@白水貿易

4.27 デンチャーコース ※開催地調整中

8.2-3 CEREC 1Dayトリートメントコース@横浜

企画中: iTeroコース・TRIOSコース



支部会



本部主催

✓ 1.26 九州支部会@博多

✓ 3.20. 関東甲信越支部会@横浜

✓ 3.25-29 IDS Tour

✓ 5.25 東北支部会@仙台

✓ 6.29 東海支部会

✓ 7.21 サマーフェスティバル@ 京都

✓ 12.6-7 第11回学術大会@ パシフィコ横浜



予定は変更になる場合があります。
詳細は学会HPにてご確認ください。

夏フェス 2025

医院のデジタル革命！
チームで取り組むCAD・CAM臨床

古都京都で最新のCAD・CAM
最新のCAD・CAM臨床を学ぼう！

京都

皆様のご参加お待ちしております！

夏フェス実行委員長
折原 雅洋

日本で買えるデジタル機器大集結！
あれも・これも・え〜？大発見〜！デジタルイベントを多数企画中！！

開催日時	場所
2025.7.21 MON 月祝	京都市勧業館 みやこめっせ 地下1階会場 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1 TEL 075-762-2630
開場 10:00 開演 10:20 閉会 17:00	会場 MAP

お申し込み

右のQRコードを読み取って、「Peatix」の「チケットを申し込む」からお申し込みください。

主催 一般社団法人日本臨床歯科CAD/CAM学会

実行委員長: 折原 雅洋
夏フェス担当理事: 関西支部長 寺村 俊

IOSをこれからはじめる方、はじめて間もない方、
そして、ヘビーユーザーも...
CAD/CAM ALL USER必見!

来春発刊予定
乞うご期待!

(仮) CAD/CAM TEXTBOOK

ベーシック（修復治療）編

CADCAM学会10年の叢智を結集した、

まさに「教科書」です!

ご期待下さい!

編集委員長より



編著：日本臨床歯科CAD/CAM学会
発行：インターアクション株式会社



なおこの書籍は、CAD/CAM Clinical Course
のTextとして使用されます。

今年も開催

特設ブースにて
1回チャレンジ!

大抽選会



同時開催IOSマスターチャレンジ

1等

学会主催 招待券

2等

2025 京都夏フェス記念品



主催：一般社団法人日本臨床歯科CAD/CAM学会

一般社団法人 日本臨床歯科CAD/CAM学会

第11回学術大会

To the Next Stage.....

2025年12月6日(土)、7日(日)

会場：パシフィコ横浜

協賛企業



Japanese Society of Computer Aided Dentistry

